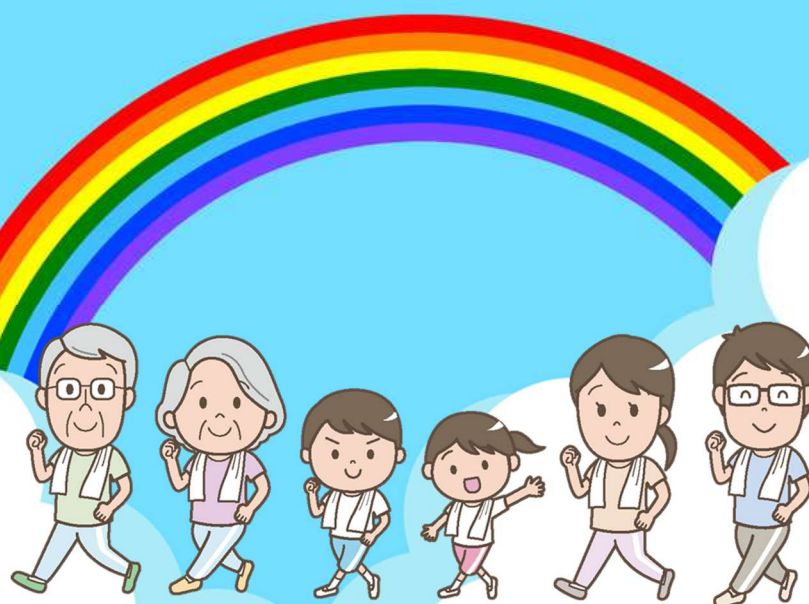


健康くさつ21（第3次）計画

草津町食育推進計画（第2次）

くさつ健やか親子21（第3次）



令和5年(2023年)3月

草津町

はじめに

健康で生涯自立を保ち、いきいきと暮らすためには、まず自らが健康に関心をもち、自分の健康は自分で守りつくるといった考えが大切です。また、その考えを基に健康づくりを家族や友人などと一緒に楽しく継続しやすいものとなるような環境が必要です。

草津町では、町民の皆様方の健康づくりを応援するために、平成15年度に健康日本21地方計画「健康くさつ21」を策定し、「健康寿命の延伸」を中心とした施策に取り組み、平成19年に中間評価を行いました。更に次計画とし、「健康寿命の延伸や健康格差の縮小」、「生活習慣病の発生予防と重篤化予防の徹底」などを基本理念とし、食育推進計画としての機能も併せた健康日本21（第2次）地方計画「新健康くさつ21（草津町食育推進計画）」を平成25年度から令和4年度までの10年間を計画期間として推進して参りました。

人口の急速な高齢化、疾病全体に占めるがんや心臓病、糖尿病等の生活習慣病の割合が増加している中、個人の健康意識の向上だけでなく、地域や学校、行政の相互作用により地域全体で底上げしていく取り組みが必要です。

町民が心と体の健康について自ら気づき、考え、行動するための具体的な取り組みについてこれらの計画を基に令和5年度から令和14年度を計画期間とする「健康くさつ21（第3次）」を策定することといたしました。

本計画が、町民の皆様に親しまれ健康づくりの輪が地域に広がっていくことを願い、今後町民の皆様と共に推進して参りたいと思っております。

最後になりましたが、策定のために熱心に審議、検討をいただきました「草津町健康増進計画策定委員会」の委員の皆様、関係団体、そして様々なアンケート調査などを通して貴重なご意見、ご提案をお寄せいただきました町民の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

草津町長 黒岩信忠



目次

第1章 計画の基本的な考え方.....	1
1 計画策定の背景及び趣旨	1
2 計画の位置づけ	1
3 計画の期間	2
第2章 草津町の概況	3
1 人口推移・年齢別人口	3
(1) 人口の推移	3
(2) 年齢階級別の人口構成（人口ピラミッド）	4
(3) 婚姻率・離婚率の状況	5
(4) 転入と転出の状況	5
(5) 出生と死亡の状況	6
2 健康寿命	7
(1) 健康寿命	7
3 疾病等の状況	8
(1) 主な死因別死亡者数の推移	8
(2) 悪性新生物の主な部位別にみた死亡数	9
4 国民健康保険の状況	10
(1) 国民健康保険医療費・後期高齢者医療費の推移	10
第3章 計画の基本理念と基本目標	11
1 計画の基本理念	11
2 計画の基本目標	11
(1) 健康寿命の延伸と健康格差の縮小	11
(2) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	11
(3) 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上	12
(4) 健康を支え、守るための社会環境の整備	12
3 基本目標に基づく「ライフステージ×領域」ごとの取り組み	12
4 計画の体系	13
5 計画の考え方	13
(1) 構成について	13
(2) 各々の項目について	14
(3) 項目の数値化（見える化）	14
(4) 計画の進捗状況の評価	14
第4章 健康づくりの推進計画（ライフステージ×領域）	15

第5章 計画の推進・評価.....	57
1 計画の推進体制.....	57
2 計画の評価.....	57
(1) 計画全体の評価指標.....	57
(2) 計画の評価と進行管理.....	57
資料編.....	58
1 草津町健康増進計画策定委員会設置要綱.....	58
2 草津町健康増進計画策定委員会名簿.....	59

第 1 章 計画の基本的な考え方

1 計画策定の背景及び趣旨

わが国は、少子高齢化や核家族化の進展に伴うライフスタイルの多様化などを社会的背景として、生活習慣病や介護を必要とする人が増加しており、健康に関する問題への取り組みがますます重要となっています。また、食育分野においても食に対する価値観の多様化が進み、若い世代における食生活の変化に起因する肥満の増加等も問題になっています。

草津町では健康増進法第8条第2項に基づく健康日本 21（第2次）地方計画として、平成 25 年 3 月に新健康くさつ 21（草津町食育推進計画）を策定しました。健康寿命の更なる延伸を目指すとともに健康格差の縮小、生活習慣病の発症や重症化予防の徹底、さらには各ライフステージにおけるこころの健康づくりにも取り組み、心身ともに健康な町づくりをめざしているところです。

また、健康を保ち、“健やかに老いるまで安心して暮らせる町づくり”を推進するとともに、今般の新型コロナウイルス感染症を取り巻く社会情勢を考慮し、町民一人ひとりの健康意識の変化や新しい生活様式を反映した健康づくりの視点に基づいた事業展開が不可欠になってきています。

こうした状況を踏まえ、町民がこころと体の健康について自ら気づき、考え、行動するための具体的な取り組みについて、草津町は「健康くさつ 21（第3次）計画」令和5年度(2023年度)～令和14年度(2032年度)を策定することとしました。

2 計画の位置づけ

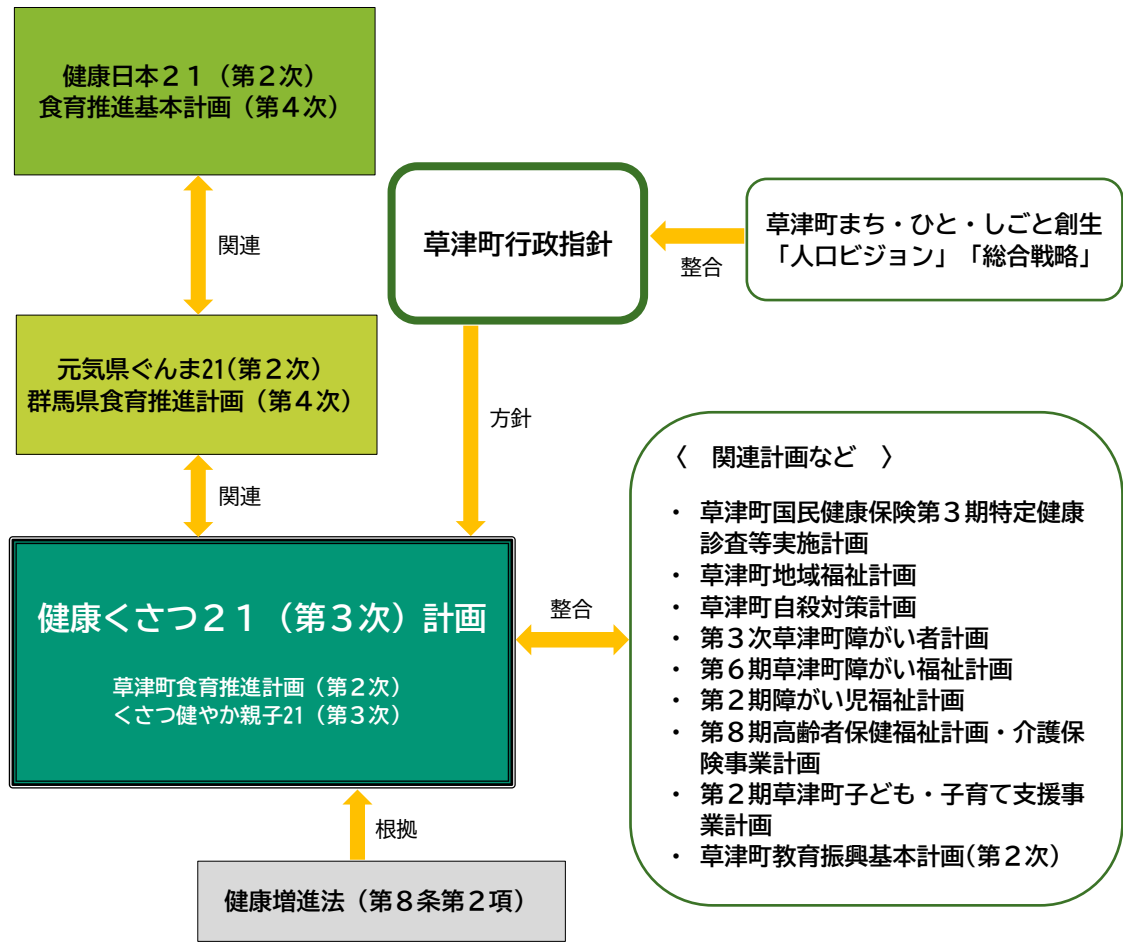
この計画は、健康増進法第8条第2項に基づき、「健康日本 21(第2次)」「元気県ぐんま 21(第2次)」を勘案し、町の実情を踏まえ、「生涯現役 いきいきライフ」の実現を目指し、「草津町食育推進計画（第2次）」、「くさつ健やか親子 21（第3次）」を一体として策定する計画です。

食育基本法第18条及び群馬県食育推進計画(第3次)に基づいた「新健康くさつ 21（草津町食育推進計画）」との整合性を図り、本計画に取り入れています。

一方、草津町では今後のさらなる飛躍を遂げるために、町の将来像と、その実現のための主要な施策を示した「草津町行政指針」を 2018 年に定めています。

本計画は、草津町の未来構想の下、関連した各種計画と整合性を図りながら策定しました。

【計画の位置づけ】



3 計画の期間

本計画は10年（2023年度～2032年度）計画とし、推進してまいります。

年度	令和2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年
	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
草津町行政指針	基本構想（平成30年度～令和8年度）												
草津町健康くさつ21	第2次（平成25年度～令和4年度）			第3次（令和5年度～令和14年度）									

第2章 草津町の概況

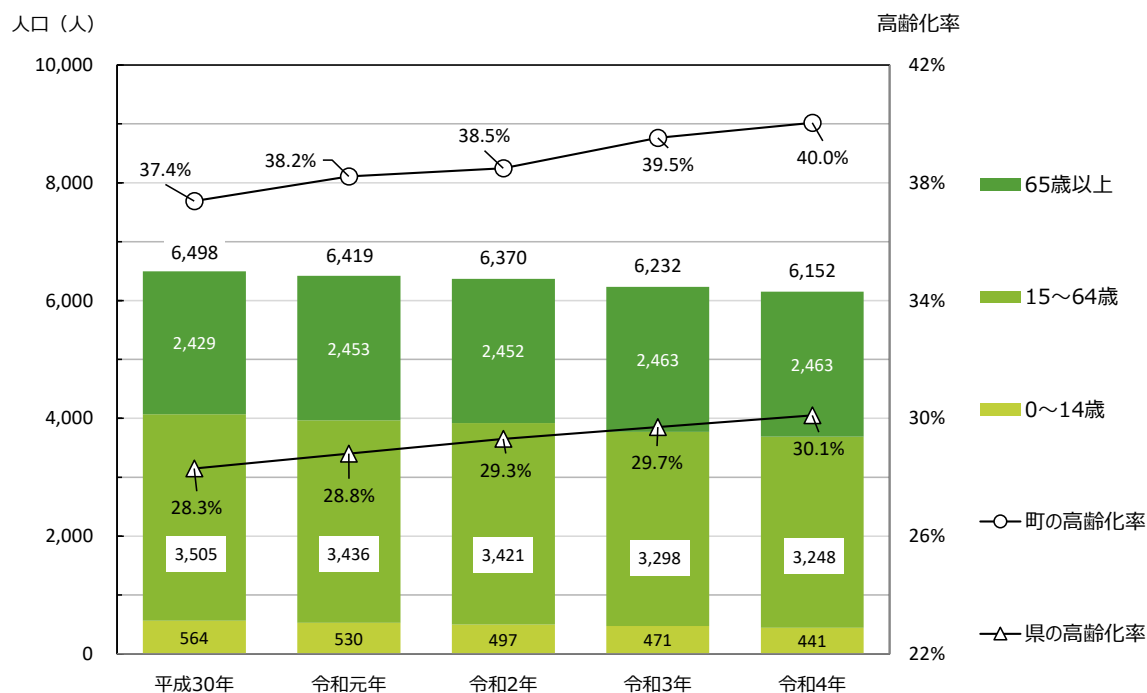
1 人口推移・年齢別人口

(1) 人口の推移

国及び群馬県全体として人口減少が進む中、草津町も同様に人口の減少傾向が続いており、令和4年度の総人口は6,152人と、平成30年度からの4年間で346人減少しました。

年齢区分別にみた増減数は、0～14歳の年少人口が123人減少、15～64歳の生産年齢人口が257人減少、65歳以上の高齢者人口が34人増加となっています。その結果、全人口に占める65歳以上の人口の割合（高齢化率）は町において上昇し続けており令和4年1月に40.0%となり、県全体の高齢化率よりも9.9ポイント高くなっています。

【人口・高齢化率の推移】

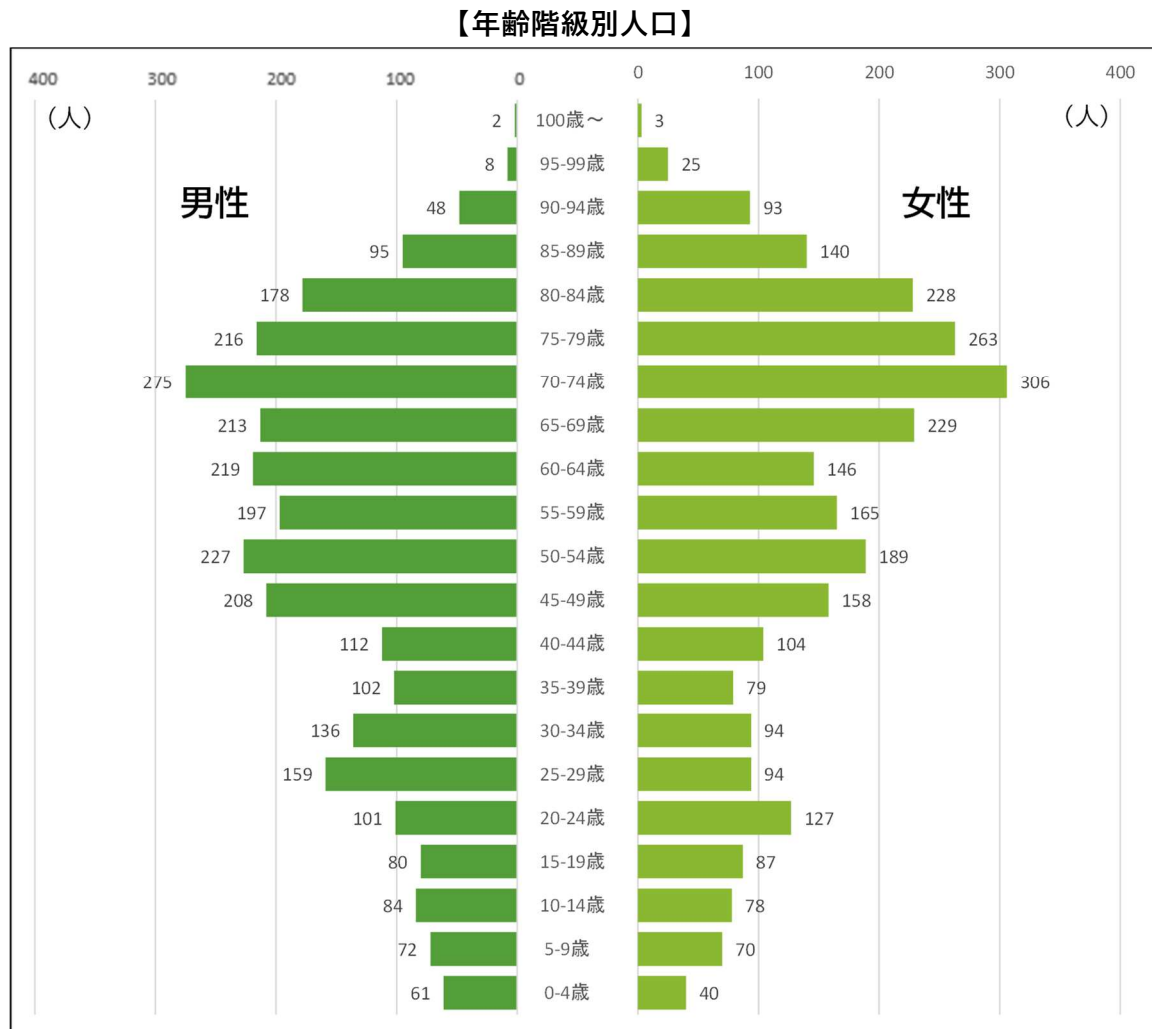


出典：群馬県統計情報提供システム 住民基本台帳（各年1月1日現在）

（２）年齢階級別の人口構成（人口ピラミッド）

5歳刻みの年齢階級別の人口構成をみると、草津町は、男女ともに 70～74 歳の世代が最も多くなっています。これに次ぐピークは、45～54歳の世代となっています。

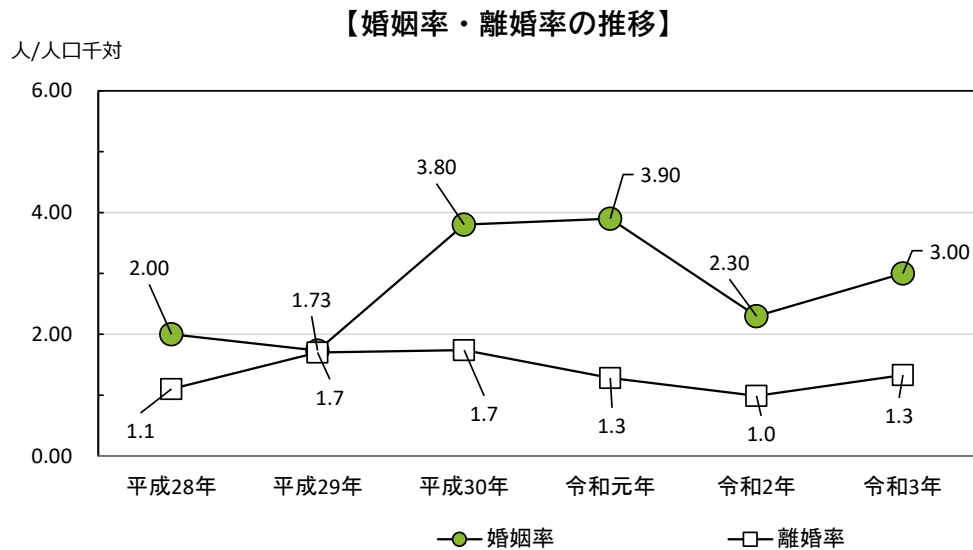
また、19歳以下の世代では、年齢の低下とともに人口が減少する傾向が見られます。



出典：群馬県統計情報提供システム 住民基本台帳（令和4年1月1日現在）

（３）婚姻率・離婚率の状況

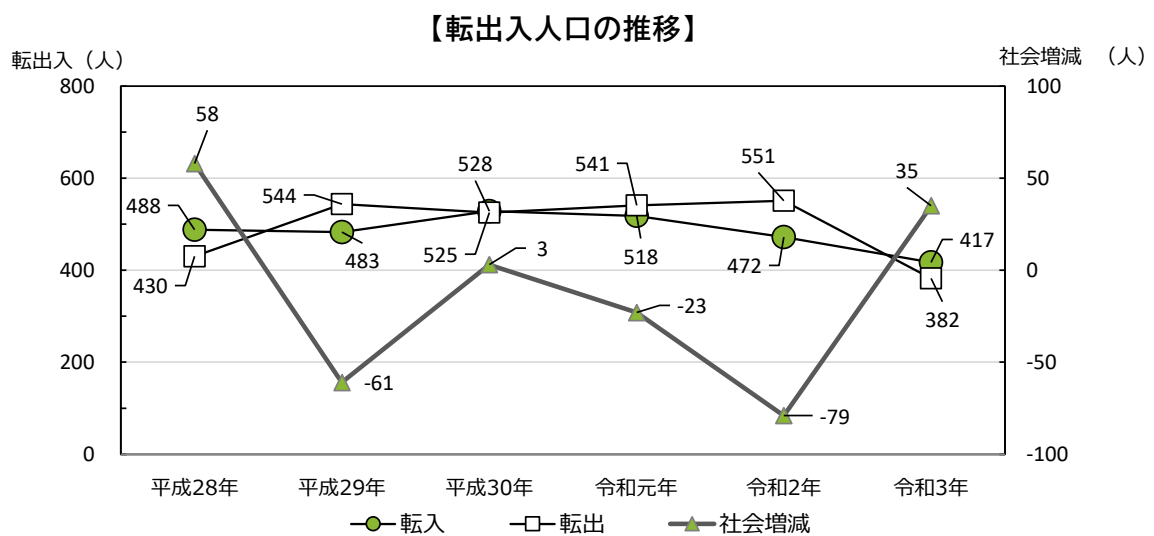
平成 28 年以降の婚姻率の推移をみるとやや変動があり、平均すると約 2.79（人/人口千対）となっています。離婚率は、概ね横ばいの傾向となっています。



出典：群馬県統計情報提供システム 年齢別人口調査（各年 10 月 1 日現在）

（４）転入と転出の状況

平成 29 年以降、草津町では年間 500 人前後の人が転出入していましたが、令和 3 年は転出が 382 人と減少しています。また、転出者が転入者をやや上回る傾向が続いていましたが、令和 3 年では転入者が転出者をやや上回り、年間で 35 人の社会増(転入者数－転出者数)となっています。

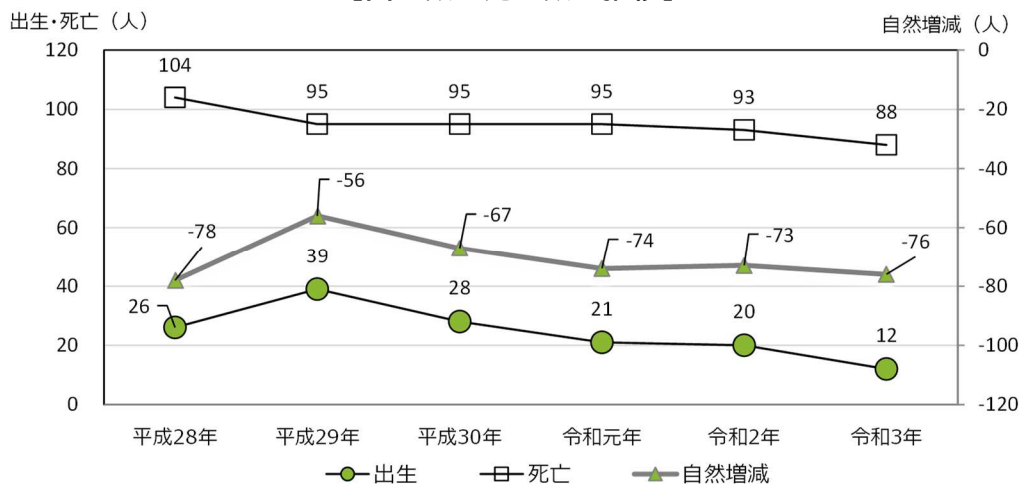


出典：群馬県統計情報提供システム 人口動態調査（各年 10 月 1 日現在）

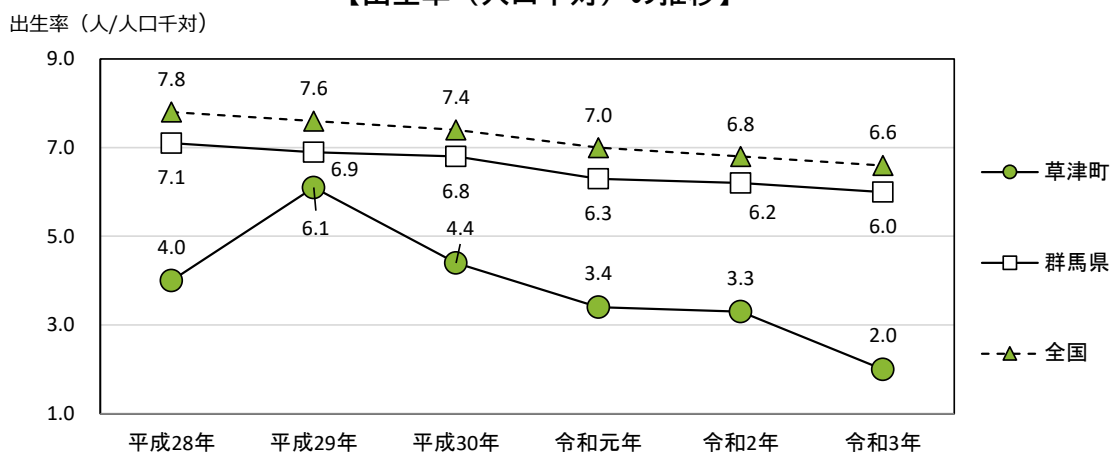
（５）出生と死亡の状況

平成 29 年以降、出生数は減少傾向、死亡数はやや減少の傾向が続いています。また、死亡数は出生数を継続して上回っており、令和 3 年では 76 人の自然減(出生者数－死亡者数)となりました。また、人口千対の出生率と死亡率をみると、出生率は全国・県よりも低く、死亡率は高い傾向が続いています。

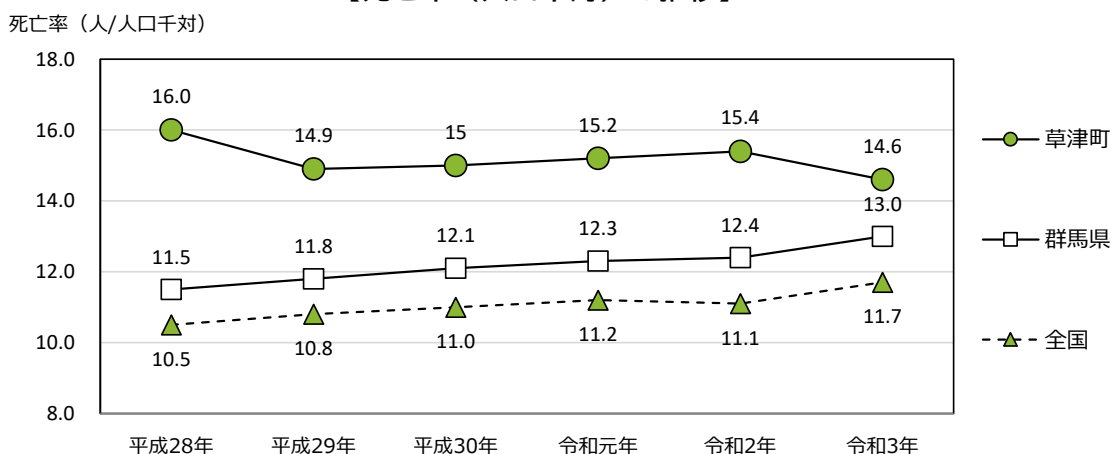
【出生数と死亡数の推移】



【出生率（人口千対）の推移】



【死亡率（人口千対）の推移】



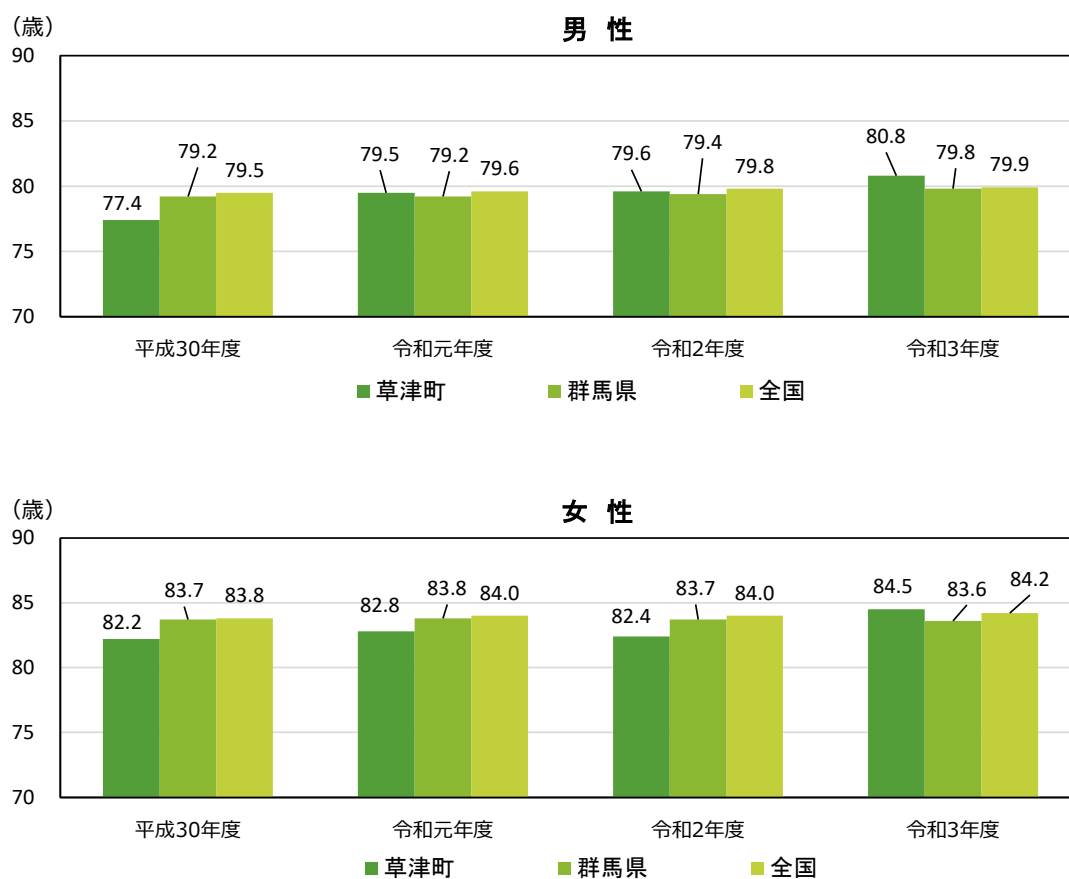
出典：群馬県統計情報提供システム 人口動態調査（各年 10 月 1 日現在）

2 健康寿命

(1) 健康寿命

草津町民の健康寿命(※)は、令和3年度において国や県の平均と比較すると、男女ともに上回っており、特に女性は令和2年度から令和3年度にかけて、大きな伸びとなっています。

※健康寿命とは、日常生活で支援や介護を要しない、自立して生活できるまでの年齢を示す。

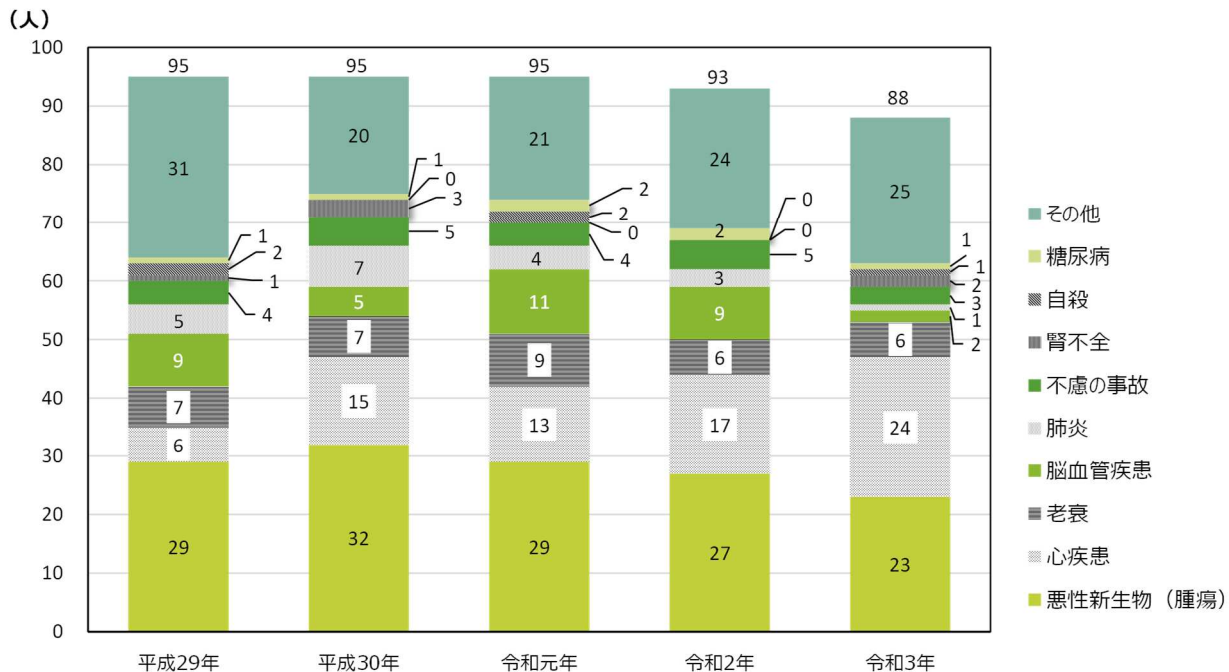


出典：国保データベース 平均自立期間(要介護2以上)

3 疾病等の状況

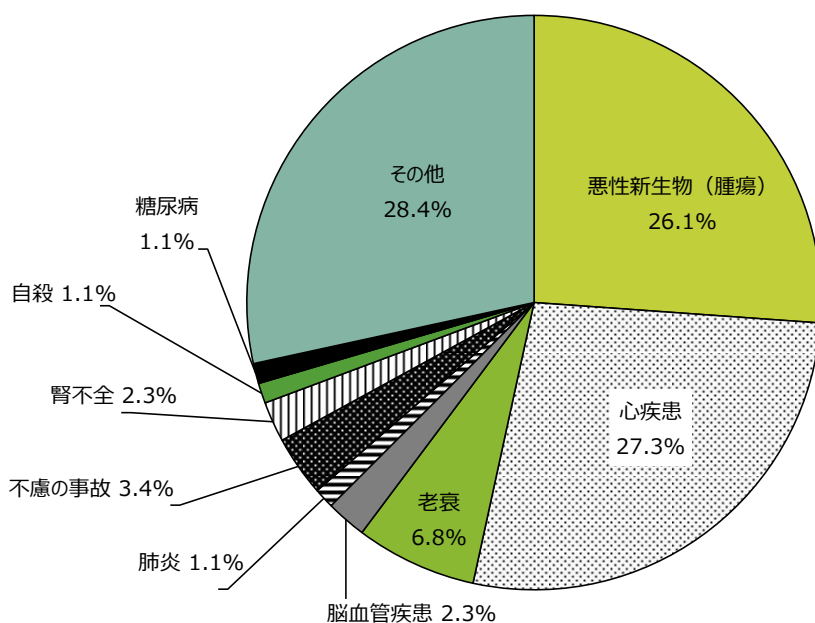
(1) 主な死因別死亡者数の推移

死因別に平成 29 年からの推移をみると、令和元年以降は、やや増加傾向のある心疾患と、悪性新生物が上位を占めています。また、死亡者数はやや減少傾向となっています。



出典：群馬県統計情報提供システム 人口動態調査（各年 10 月 1 日現在）

令和 3 年の草津町における死亡者の死因別の割合は、3 大生活習慣病とされる悪性新生物 (26.1%) や心疾患 (27.3%)、脳血管疾患 (2.3%) が合わせて全体の 55.7% を占めています。



出典：群馬県統計情報提供システム 人口動態調査（令和 3 年 10 月 1 日現在）

(2) 悪性新生物の主な部位別にみた死亡数

悪性新生物の主な部位別の死亡数をみると、年によって多少ばらつきはありますが、総数も含めて大きな傾向はみられません。

	平成 28 年		平成 29 年		平成 30 年		令和元年		令和 2 年	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
食道	1	0	1	1	1	0	3	0	0	1
胃	2	1	3	1	2	2	4	0	2	1
大腸 ※1	4	3	2	1	1	5	0	2	1	1
肝臓	1	2	0	1	4	1	1	1	1	1
すい臓	1	1	3	2	1	4	5	3	0	0
肺 ※2	3	1	4	4	3	1	1	0	0	4
乳房	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0
子宮		1		0		0		0		0
前立腺	0		0		0		0		1	
白血病	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
総数	13	11	18	11	15	17	18	11	13	14

※1：結腸、及び直腸、直腸S状結腸移行部

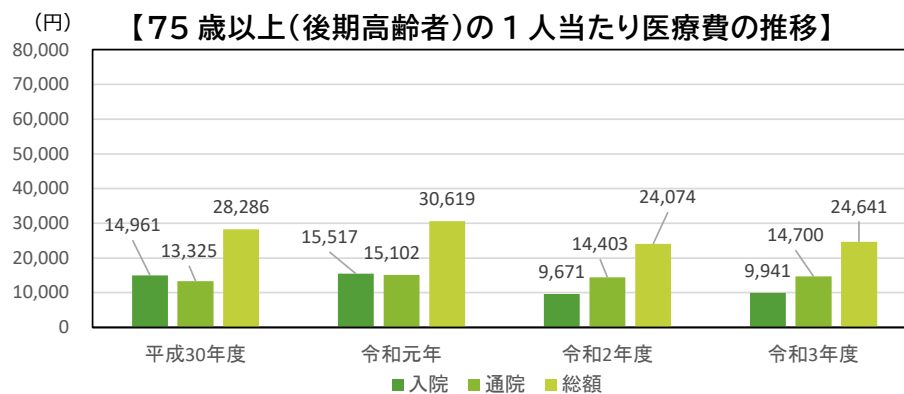
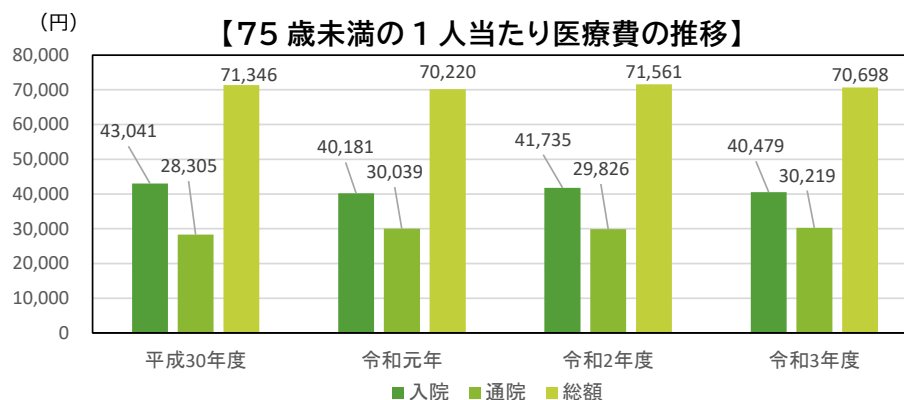
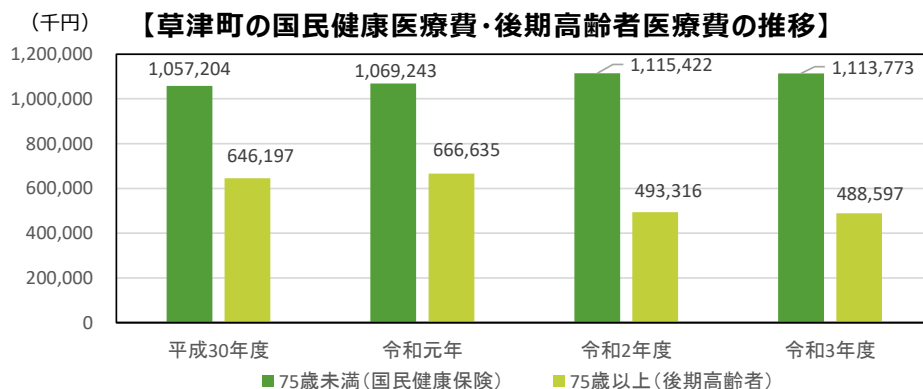
※2：気管、気管支及び肺

出典：群馬県統計情報提供システム 人口動態調査

4 国民健康保険の状況

(1) 国民健康保険医療費・後期高齢者医療費の推移

平成30年度以降、75歳未満（国民健康医療費）はほぼ横ばい、後期高齢者医療費は令和2年度に減少し、令和3年度にかけて横ばい状態となっています。また、1人当たりの医療費において、75歳未満は横ばい、75歳以上（後期高齢者）は令和2年度に入院費が減少し、令和3年度にかけて横ばい状態となっています。



出典：国保データベース

第3章 計画の基本理念と基本目標

1 計画の基本理念

生涯を通じて心身ともに健康であることはとても大切であり、かけがえのないものです。

健康であることは、より良い生活習慣を身につけ、生活習慣病の発症予防と重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上等に努めていくことが重要です。

しかし、健康は家庭、学校、地域、職場等の社会環境の影響を受け、個人の努力のみでは達成できないことが多くあります。つまり、社会全体として個人の健康を支え、守る環境の整備も必要です。

「健康くさつ21（第3次）」は、全ての町民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる力ある町を目指します。町の健康増進の総合的な推進を図るための基本的な事項を示し、個人をはじめ行政や関係機関・団体等社会全体がお互いに協力し、生涯を通じた健康を実現するために以下のとおり理念を掲げます。

「町民一人ひとりの健康を確保し、

健やかに老いるまで安心して暮らせる健康な町づくり」

2 計画の基本目標

（1）健康寿命の延伸と健康格差の縮小

高齢化の進展及び疾病構造の変化を踏まえ、生活習慣病の予防、社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上等により、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の延伸を実現することが重要です。また、あらゆる世代の健やかな暮らしを支える良好な社会環境を構築することにより、健康格差（地域や社会経済状況の違いによる集団間の健康状態の差）の縮小を実現することを目指します。

（2）生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

がん、循環器疾患、糖尿病及び慢性閉塞性肺疾患（COPD）※に対処するため、食生活の改善や運動習慣の定着等による一次予防（生活習慣を改善して健康を増進し、生活習慣病の発症を予防すること）に重点を置いた対策を推進するとともに、合併症の発症や症状の進展等の重症化予防に重点を置いた対策を推進することが必要です。

※これら4つの疾患（がん、循環器疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患）は、国際的には重要なNCD（非感染性疾患）として捉え、予防及び管理のための包括的な対策を講じることが重要視されています。

（３）社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

住民が自立した日常生活を営むことを目指し、乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージにおいて、心身機能の維持及び向上につながる対策や生活習慣病を予防し、その発症時期を遅らせることができるよう、子どもの頃から健康な生活習慣づくりに取り組む必要があります。さらに、働く世代のメンタルヘルス対策等により、ライフステージに応じた「こころの健康づくり」に取り組むことが必要です。

（４）健康を支え、守るための社会環境の整備

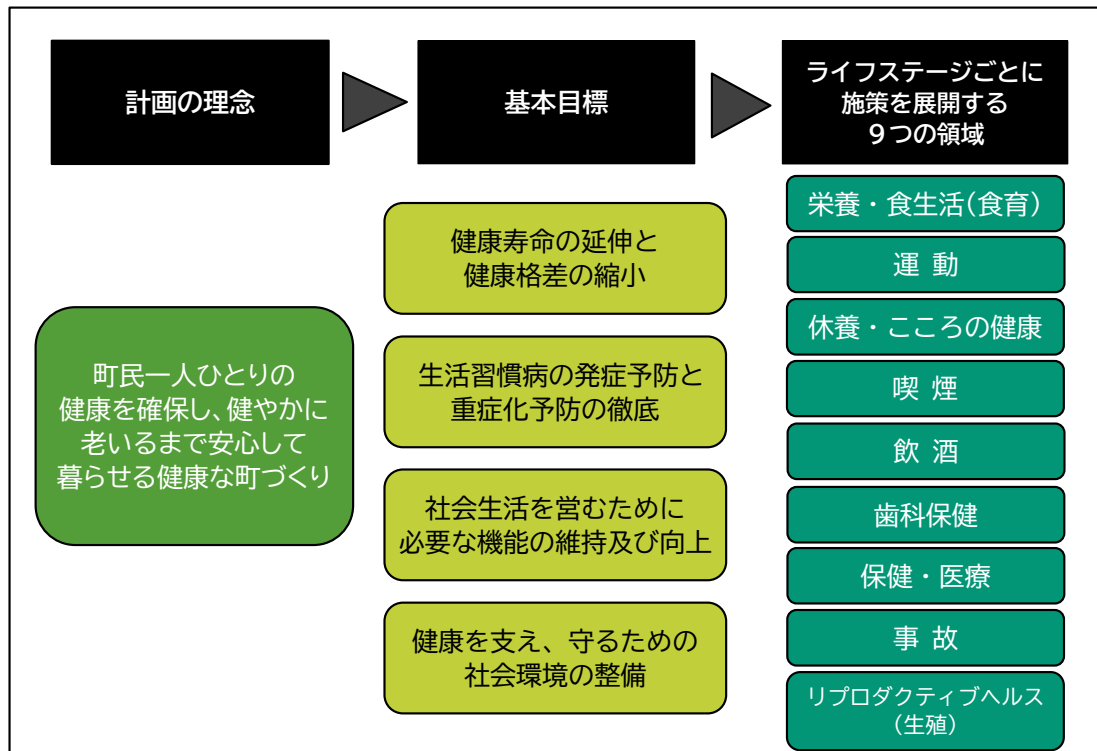
個人の健康は、家庭、学校、地域、職場等の社会環境の影響を受けることから、社会全体として、個人の健康を支え、守る環境づくりに努めていくことが重要であり、行政機関のみならず、広く住民の健康づくりを支援する企業、民間団体等の積極的な参加協力を得るなど、住民が主体的に行う健康づくりの取り組みを総合的に支援する環境を整備することが求められています。また、地域や世代間の相互扶助など、地域や社会の絆、職場の支援等が機能することにより、時間的または精神的にゆとりのある生活の確保が困難な者や、健康づくりに関心のない者等も含めて、社会全体が相互に支え合いながら、住民の健康を守る環境を整備することが必要です。

3 基本目標に基づく「ライフステージ×領域」ごとの取り組み

本計画の理念である「町民一人ひとりの健康を確保し、健やかに老いるまで安心して暮らせる健康な町づくり」の実現に向け、それぞれの基本目標を達成するため、ライフステージ（乳幼児、学童・思春期、青壮年期、高齢期）と下記9つの領域ごとに施策を展開していき、健康づくりに対する取り組みを町民に啓発していきます。

- （１） 栄養・食生活(食育)
- （２） 運動
- （３） 休養・こころの健康
- （４） 喫煙
- （５） 飲酒
- （６） 歯科保健
- （７） 保健・医療
- （８） 事故
- （９） リプロダクティブヘルス(生殖)

4 計画の体系



5 計画の考え方

(1) 構成について

4つのライフステージと9つの領域とのマトリックス表中の各々について現状分析を行い、課題点を挙げて、今後めざすべき目標と保健事業計画立てを行います。

ライフステージ 領域	乳幼児期	学童・思春期	青壮年期	高齢期
栄養・食生活(食育)	ア	ク	シ	ト
運動	イ		ス	ナ
休養・こころの健康	ウ 育児不安・虐待対策含む	ケ	セ	ニ
喫煙		コ 薬物含む	ソ	
飲酒			タ	
歯科保健	エ	ク	チ	
保健・医療	オ健康診査 カ予防接種	慢性疾患児への支援含む	ツ糖尿病・循環器	テがん
事故	キ SIDS含む	ケ		ヌ 転倒予防含む
リプロダクティブヘルス(生殖)		サ HIV・STD含む		

（２）各々の項目について

「現状」

- ・ 町民の健康状態や生活習慣の状況
- ・ 町の保健事業実施状況

「課題点」

- ・ 町民の健康状態や生活習慣のうち特に問題があるもの
- ・ 町の保健事業のうち特に問題のあるもの

「目標と計画」

- ・ ヘルスプロモーション理念に基づき、課題点を踏まえ、今後めざすべき目標と町の保健事業計画を記載します。

（３）項目の数値化（見える化）

- ・ 各々の項目の現状と実態を、出来る限り数値化（見える化）して把握し、それぞれの項目の状況を「数値」にて追跡します。

（４）計画の進捗状況の評価

- ・ 各々の項目は、通常の業務から入手できる「数値」も多く、これから管理していく「数値」を年度ごとに整理することによって、目標や計画に対する進捗状況を経年的に評価することが出来ます。

（注）【目標と計画】欄にある「めざすべき目標」と「町の保健事業計画」に示されている“→”の後の“増加”“減少”“維持”等は、数値等の今後めざすべき「目標」であり、変化を表すものではありません。

第4章 健康づくりの推進計画（ライフステージ×領域）

㊦ ◆ライフステージ：乳幼児期 ◆領域：栄養・食生活（食育）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○食事を喜んで食べる児④

乳児健診

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	97.6%	91.7%	96.4%
3歳児	86.7%	97.0%	96.9%

○好き嫌いが少ない児④

幼児健診

	H22	H29	R3
3歳児	68.9%	66.7%	84.4%

○おやつ時間を決めている児④

幼児健診

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	56.1%	70.8%	85.7%
3歳児	73.3%	66.7%	65.6%

○子どものおやつに注意している母親④

幼児健診

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	58.5%	66.7%	71.4%
3歳児	55.6%	60.6%	40.6%

○子どもの栄養のことで心配や不安を感じた母親④

乳児健診

	H22	H29	R3
0～5ヶ月児	32.3%	30.3%	20.0%
6～12ヶ月児	43.5%	34.6%	40.0%

○子どもの食事のことで心配や不安を感じた母親④

幼児健診

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	75.6%	62.5%	64.3%
3歳児	62.2%	78.8%	43.8%

○主食・主菜・副菜が毎食そろっている児④

（バランスを考えている親）

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	87.8%	91.7%	92.9%
3歳児	91.1%	97.0%	96.9%

○好き嫌いが少ない児④

	H22	H29	R3
3歳児	68.9%	66.7%	84.4%

○おやつ時間を決めている児④

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	56.1%	70.8%	85.7%
3歳児	73.3%	66.7%	65.6%

○家族そろってとる食事が1日に1回はある④

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	75.6%	75.0%	82.1%
3歳児	84.4%	78.8%	81.3%

○離乳食について学ぶ機会がある②：（H23）97.1% →（R4）32件（97.0%）

問 離乳食についてどこから情報を得ていますか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	比率
テレビ	2	6.1%
雑誌	12	36.4%
新聞	0	0.0%
インターネット・SNS	22	66.7%
役場・保健センター	13	39.4%
友人	7	21.2%
家族	14	42.4%
どこからも得ていない	1	3.0%
その他	1	3.0%
回答者数	33	

※「ある」97.0%＝テレビ/雑誌/新聞/インターネット/
役場/友人/家族のいずれかに○

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○乳児相談の出席率③：（R3）90.6% ○乳児健診の受診率③：（R3）100% ○手作り離乳食教室（H23）4回 40人→（R2）2回 11人 ○食改推によるおやこ食育教室の開催：（H23）1回20人→（R3）1回 28人 ○認定こども園においての食育推進

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○乳児期に比べ幼児期になると食事に対する心配や不安を感じる保護者が増える ○食物アレルギーを有する乳幼児が増加傾向にある ○情報をメディアに頼る保護者も多い ○外国人が増加し、言葉や習慣への認識に差がみられる ○食事バランスガイド、いただきますの日の認知度が低い ○卒乳や離乳食の完了の時期が遅延傾向にある ○感染症予防の観点から保健事業が縮小した

【目標と計画】

めざすべき目標
○規則正しい生活リズムを整える（睡眠・食事・活動） ○家庭やこども園での生活を通じ、食事のマナーを身につける ○家族そろって楽しく食事をする ○関係機関が連携し、途切れない食育をめざす ○おやつ時間を決めている3歳児の割合④：（R3）65.6% →増加 ○こどもの栄養や食事について不安を感じる母親の割合④： 6～12ヶ月児：（R3）40.0% →減少 1歳6ヶ月児：（R3）64.3% →減少 3歳児：（R3）43.8% →減少
町の保健事業計画
○認定こども園では、体験を伴い食べ物に興味をもたせられるような働きかけをする ○離乳食～幼児食及びアレルギー児に対する正しい情報の提供を行う ○はしの持ち方をはじめ、食事のマナーを身につけ就学までに基礎となる食事の土台作りを整える ○栄養相談票を集計しながらアンケート内容の見直しを考える ○食べることが家族で楽しめるような支援を心掛ける ○乳児相談(3ヶ月児・6ヶ月児・12ヶ月児)：栄養士による個別指導の実施 月1回(継続) ○乳児健診(4～5ヶ月児・10～11ヶ月児)：栄養士による個別指導の実施 年6回(継続) ○幼児健診(1歳6ヶ月児・3歳児)：栄養士による個別指導の実施 各年3回(継続) ○手作り離乳食教室：年6回(5～6ヶ月児・11～12ヶ月児)または乳児相談(離乳食教室)での栄養指導：月1回(試食の提供) *感染症対策による事業変更あり ○認定こども園での食育：給食や行事を通して体験し、食にふれる機会をつくる(栄養士間の連携) ○食改推による食育事業：おやこの食育教室等 年1回 ○「食事バランスガイド」「いただきますの日」の普及 ○子育てひろばすくすく(社協)食育講座：年2回 ○食育推進会議：年4回

①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票

⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート

⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書

⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

① ◆ライフステージ：乳幼児期 ◆領域：運動

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- 相談の機会、赤ちゃん体操や親子遊びを学ぶ機会の減少
- 集団での交流の機会の減少
- 子どもが安全に楽しく遊べる場所を求める声が多い
- 遊び方や集団のルールを教えてくれる場所を求める声が多い
- 生活習慣が不規則な幼児の増加（就寝時間が遅い）

○子育てするためにどのような場を期待するか
（複数回答可）② ※下表

○安心して遊ばせられる場所を期待する親②：
（H23）100.0% → （R4）31件（93.9%） ※下表

(H22)	項目	件数	比率
	母親や父親同士が集い、情報交換ができる場	36	34.3%
	子どもが安全に楽しく遊べる場	95	90.5%
	遊び方や集団生活のルールなどを教えてくれる場	38	36.2%
	相談したり、情報を得ることができる場	44	41.9%
	夜間や休日にも相談したり、情報を得ることができる場	31	29.5%
	妊産婦や乳幼児の健康診査、保健指導や育児教室	39	37.1%
	一時的に子どもを預けられる場	60	57.1%

問 子育てするためにどのような場を期待しますか。（あてはまるものすべてに○）

(R4)	項目	件数	比率
	母親や父親同士が集い、情報交換ができる場	11	33.3%
	子どもが安全に楽しく遊べる場	31	93.9%
	遊び方や集団生活のルールなどを教えてくれる場	16	48.5%
	相談したり、情報を得ることができる場	10	30.3%
	夜間や休日にも相談したり、情報を得ることができる場	8	24.2%
	妊産婦や乳幼児の健康診査、保健指導や育児教室	9	27.3%
	一時的に子どもを預けられる場	12	36.4%
	その他	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	回答者数	33	

○夜9時までに就寝する3歳児④

幼児健診

	H22	H29	R3
3歳児	64.4%	97.0%	37.5%

○体を使った遊びを毎日している児⑤

幼児健診

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	87.8%	79.2%	82.1%
3歳児	82.2%	81.8%	93.8%

○赤ちゃん体操や親子遊びを知っている②：（H23）84.8% → （R4）20件（60.6%）

問 赤ちゃん体操や親子遊びを知っていますか。（1つに○）

項目	件数	構成比
はい	20	60.6%
いいえ	13	39.4%
合計	33	100.0%

○子どもとスキンシップを持つ 父親②

（H23）よく遊んでいる57.1% → （R4）18件（54.5%）※右表

（H23）時々遊ぶことがある29.5% → （R4）10件（30.3%）※右表

問 お父さんはお子さんと遊んでいますか。

（1つに○）

項目	件数	構成比
よく遊んでいる	18	54.5%
時々遊ぶことがある	10	30.3%
ほとんど遊ばない	2	6.1%
なんともいえない	0	0.0%
無回答	3	9.1%
合計	33	100.0%

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業		
○赤ちゃん体操を学ぶ機会がある (H23) 93.9%→(R4)30件(90.9%)② ※下表 問 赤ちゃん体操の方法についてどこから情報を得ていますか。(あてはまるものすべてに○)		
項目	件数	比率
テレビ	4	12.1%
雑誌	2	6.1%
新聞	1	3.0%
インターネット・SNS	14	42.4%
役場・保健センター	13	39.4%
友人	3	9.1%
家族	9	27.3%
どこからも得ていない	3	9.1%
その他	1	3.0%
無回答	6	18.2%
回答者数	33	
※「ある」90.9%=テレビ/雑誌/新聞/インターネット/役場/友人/家族のいずれかに○		
○親子遊びを学ぶ機会がある (H23)91.9%→(R4)27件(81.8%)② ※下表 問 親子遊びの方法についてどこから情報を得ていますか。(あてはまるものすべてに○)		
項目	件数	比率
テレビ	12	36.4%
雑誌	4	12.1%
新聞	1	3.0%
インターネット・SNS	16	48.5%
役場・保健センター	9	27.3%
友人	6	18.2%
家族	6	18.2%
どこからも得ていない	6	18.2%
その他	2	6.1%
無回答	3	9.1%
回答者数	33	
※「ある」81.8%=テレビ/雑誌/新聞/インターネット/役場/友人/家族のいずれかに○		

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業	
○子どものあやし方、遊ばせ方、体を使った遊びの方法がわからない傾向がある	
○保護者が正常な発育や発達等の情報を得る機会が少なくなっている	
○赤ちゃん体操や親子遊びを学ぶ機会がない親が多い(約3割)	
○「子どもが安全に楽しく遊べる場」を要望する親が多い	○生活リズムが不規則な子どもの増加

【目標と計画】

めざすべき目標
○夜9時までに就寝する3歳児の割合④：(R3) 37.5% →増加
○体を使った遊びを毎日している児の割合⑤：(R3) 88.0% →増加
○赤ちゃん体操や親子遊びを知っている保護者の割合②：(R4) 60.6% →増加
○積極的に育児をする父親の割合(3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児)■：(R4) 45.5% →増加
町の保健事業計画
○規則正しい生活習慣を身に付ける(早寝早起きの習慣化に留意して生活することの重要性を周知する)
○乳児相談(3ヶ月児・6ヶ月児・12ヶ月児)：保健師による相談支援 月1回(継続)
○赤ちゃん体操や遊び方を助言する教室の開催など、親のニーズに応じて必要な支援を行う
○ベビールーム(3～12ヶ月児)：助産師・保健師によるベビーマッサージ・赤ちゃん体操指導の実施 保育士による手遊びの実施 月1回(継続)
○育児支援教室「すまいる」(1～3歳児)：保健師・保育士による体を使った親子遊び及び療育支援指導の実施 月1回(継続)
①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書 ⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

② ◆ライフステージ：乳幼児期 ◆領域：休養・こころの健康（育児不安・虐待対策含む）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- 体重増加や発達、離乳食についての相談に加え、育て方やあやし方がわからないという相談がある
- 育児全般についての不安、育児に自信が持てない、育児への負担感の訴えに加え、協力者不在、経済的問題を抱える保護者の増加
- 妊娠届出時アンケート：（R3）n=32 ハイリスク 4人（12.5%）、外国人妊婦 9人（28.1%）
- 子育てアンケート（乳児相談3ヶ月児対象）：
（R3）n=14 不安や悩みを抱えている母 6人、育児への負担感を訴える母 1人
- 要保護児童対策地域協議会：（H23）特定妊婦4人、要支援児童11人、要保護児童2人
（R3）特定妊婦1人、要支援児童17人、要保護児童4人
- 妊娠・出産に満足している者（3・4ヶ月児）■：（R3）100.0%
- 子どもを虐待していると思われる親（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）24.4%

○心身ともに良好な状態にあると思う親②

乳児・1歳6ヶ月児・3歳児健診②

お父さん：（H23）75.2% →（R4）22件（66.7%）※下表

お母さん：（H23）77.1% →（R4）22件（66.7%）※下表

問 お父さんとお母さんの気持ちや体の調子はいかがですか。

項目		心身ともに 快調	体の調子はよいが 精神的に不調	精神的にはよいが 体が不調	心身ともに 調子が悪い	なんとも いえない	無回答
お父さん	件数	22	4	2	1	1	3
	%	66.7%	12.1%	6.1%	3.0%	3.0%	9.1%
お母さん	件数	22	1	2	0	3	5
	%	66.7%	3.0%	6.1%	0.0%	9.1%	15.2%

○ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間があるお母さん（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）73.7%

○育てにくさを感じた時に対処できる親（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）79.5%

○子育てが楽しいと感じる親

乳幼児健診

	H22	H29	R3
～5ヶ月児	96.8%	97.0%	100%
6ヶ月児～	100%	96.2%	100%
1歳6ヶ月児	92.7%	91.7%	96.4%
3歳児	86.7%	81.8%	100%

○家族（父親）と育児について話し合いができる母親②：（H14）58.0%→（H23）80.0% →（R4）23件（69.7%）

問 ご夫婦間で育児について話し合いができますか。（1つに○）

項目	件数	構成比
はい	23	69.7%
いいえ	2	6.1%
なんともいえない	6	18.2%
無回答	2	6.1%
合計	33	100.0%

○積極的に育児をする父親（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）65.4%

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○育児に参加する父親■②：よくやっている（H23）53.3%→（R4）45.5%

時々やっている（H23）33.3%→（R4）39.4%

問 お父さんは育児をしていますか。（1つに○）

項目	件数	構成比
よくやっている	15	45.5%
時々やっている	13	39.4%
ほとんどしない	2	6.1%
なんともいえない	0	0.0%
無回答	3	9.1%
合計	33	100.0%

○育児について相談相手のいる母親⑤（3ヶ月児）

（H23）100.0% →（R3）64.2%

○育児についての相談窓口を知っている②：（H23）58.1% →（R4）13件（39.4%）

問 育児についての相談窓口を知っていますか。（1つに○）

項目	件数	構成比
はい	13	39.4%
いいえ	20	60.6%
無回答	0	0.0%
合計	33	100.0%

○育児の知識を学ぶ機会がある②：（H23）76.2% →（R4）22件（66.7%）

問 育児の知識を学ぶ機会がありますか。（1つに○）

項目	件数	構成比
はい	22	66.7%
いいえ	11	33.3%
無回答	0	0.0%
合計	33	100.0%

○育児教室に参加する親②③

ベビールーム：（H23）90.2% →（R4）11件（84.6%） ※下表

すまいる：（H23）26.8%

問 どんな教室に参加しましたか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	比率
保健センターで行う育児教室 （ベビールーム・すまいる・手づくり離乳食講習会）	11	84.6%
子育てサロン等のサークル・育児教室	1	7.7%
その他	0	0.0%
無回答	2	15.4%
回答者数	13	
合計	33	

○地域の母子保健推進員を知っている親②：（H23）75.2% →（R4）18件（54.5%）

問 地域の母子保健推進員を知っていますか。（1つに○）

項目	件数	構成比
はい	18	54.5%
いいえ	14	42.4%
無回答	1	3.0%
合計	33	100.0%

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○育て方が分からない・育児に自信が持てない等の育児不安、育児への負担感を訴える母親の増加

○妊娠届出時から育児や家庭の不安や悩みを持つハイリスク者、特定妊婦の増加

○要保護児童対策地域協議会 要支援・要保護児童、特定妊婦の増加

○育児不安を抱える母親の増加

【目標と計画】

めざすべき目標
○積極的に育児をする父親の割合（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）65.4%→（R4）45.5% →増加 ○ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）73.7% →増加 ○育てにくさを感じた時に対処できる親の割合（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）79.5% →増加 ○子どもを虐待していると思われる親の割合（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）24.4% →減少 ○妊娠・出産に満足している者の割合（3・4ヶ月児）■：（R3）100% →維持 ○この地域で子育てをしたいと思う親の割合（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）80.1% →増加 ○妊娠中から出産、育児における切れ目ない支援のため、妊娠届出時の面談において、相談窓口や子育てガイドブックを周知する ○乳児相談・乳幼児健診で親の体調や心理面への相談支援の強化を図る ○乳幼児を持つ母親への支援、母親同士が交流できる育児教室の継続（育児支援教室「すまいる」「ベビールーム」） ○虐待予防対策として、要保護児童対策地域協議会の連携、相談支援体制強化を図る ○母子保健推進員の育成及び周知を図る
町の保健事業計画
○子育て世代包括支援センター（R2.12設置）における専門職による相談支援 ○乳児相談（3ヶ月児・6ヶ月児・12ヶ月児）：保健師による個別指導の実施 月1回（継続） ○乳児健診（4～5ヶ月児・10～11ヶ月児）：保健師による個別指導の実施 年 6回（継続） ○幼児健診（1歳6ヶ月児・3歳児）：保健師による個別指導の実施 各年3回（継続） ○1.6歳・3歳児健診に心理相談員の配置：健診の場での育児不安に対応 各年3回（継続） ○乳幼児個別相談：臨床心理士による相談（予約制） 月1回（継続） ○ベビールーム：乳児を対象とした育児教室 月1回（継続） ○育児支援教室すまいる：1～3歳児を対象に発達支援、親子遊びの紹介、育児に関する講話の実施 月1回（継続） ○妊娠届出時アンケート、子育てアンケート（継続） ○訪問指導の実施（継続）
①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書 ⑬KDB（国保データベース） ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

① ◆ライフステージ：乳幼児期 ◆領域：歯科保健

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

<乳幼児健診受診者、歯科健診結果>

○健診での相談内容は、歯磨きや仕上げ磨きを嫌がる、むし歯治療の時期について、指しゃぶりの歯列への影響の心配、フッ化物の利用の相談が挙げられる

○う歯のない児④■

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	97.6%	95.8%	92.9%
3歳児	71.1%	72.7%	87.5%

○幼児の平均う歯数⑥

	H22	R3
1歳6ヶ月児	0.13本	0.32本
3歳児	1.28本	0.31本

○フッ素塗布を受けたことがある児⑥■

	H22	R3
3歳児	31.1%	100%

○甘味飲料を毎日飲む習慣のある児④■

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	39.0%	37.5%	21.4%
3歳児	42.2%	40.4%	18.8%

○おやつ時間が決まっている児④

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	56.1%	70.8%	85.7%
3歳児	73.3%	66.7%	65.6%

○哺乳瓶の使用をやめている児④

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	78.0%	83.3%	53.6%
3歳児	95.6%	93.9%	100%

○母乳をやめている児④

	H22	H29	R3
1歳6ヶ月児	82.9%	70.8%	53.6%
3歳児	100%	97.0%	96.9%

○毎日歯磨き、仕上げ磨きをしている児④

	H29	R3
3歳児	87.9%	93.8%

○仕上げ磨きについて学ぶ機会がある②

(H23) 89.5% → (R4) 26件(78.8%) ※右表

問 お子さんの歯みがきについて、仕上げみがきの方法をどこから情報を得ていますか。

(あてはまるものすべてに○)

項目	件数	比率
テレビ	5	15.2%
雑誌	3	9.1%
新聞	2	6.1%
インターネット・SNS	15	45.5%
役場・保健センター	13	39.4%
友人	3	9.1%
家族	10	30.3%
どこからも得ていない	7	21.2%
その他	3	9.1%
無回答	0	0.0%
回答者数	33	

※「ある」78.8%＝テレビ/雑誌/新聞/インターネット/
役場/友人/家族のいずれかに○

○フッ化物歯面塗布を受ける機会がある③

年代別(1歳6ヶ月児、2歳児、2歳6ヶ月児、3歳児)

歯科健診(フッ素塗布)の実施

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- 1歳6ヶ月児健診では約半数が母乳を与えたり、哺乳びんの使用を継続している
- 仕上げ磨きについて学ぶ機会の減少
- 3歳児ではおやつ時間が決まっていない家庭が増加している

【目標と計画】

めざすべき目標

- 正しい歯磨きの習慣をつける
- おやつの時間を含む生活リズムや衛生環境を整える
- 3歳で歯のない児の割合●④⑥：(R3) 87.5% →増加
- 甘味飲料を毎日飲む習慣のある児の割合●④：(R3) 23.7% →減少
- フッ素塗布を受けたことがある幼児の割合●③：(R3) 100.0% →維持
- 3歳で不成咬合が認められる者の減少●⑩ →今後、現状値を把握し、改善に取り組む指標

町の保健事業計画

- 歯磨きや仕上げ磨きについて、正しい情報を発信する
- 適切な食事やおやつの時間、内容について助言を強化する
- 咀嚼・嚥下等口腔機能の発達を促進するための健康教育を実施する
- 乳児相談、幼児健診で栄養士による個別指導の継続、歯科衛生士による仕上げ磨き指導の徹底（継続）
 - 乳児相談：月1回
 - 1歳6ヶ月児、3歳児健診：各年3回
 - 2歳児、2歳6ヶ月児：各年6回(1歳6ヶ月児・3歳児健診と併せて実施)
- フッ化物歯面塗布事業の実施（継続）
 - 1歳6ヶ月児、3歳児健診：各年3回
 - 2歳児、2歳6ヶ月児：各年6回(1歳6ヶ月児・3歳児健診と併せて実施)
- 育児支援教室での歯科健康教育の実施

- ①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票
- ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート
- ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書
- ⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

④ ◆ライフステージ：乳幼児期 ◆領域：保健・医療（健康診査）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○乳児死亡率△：（H21）0.0%→（R3）0.0%

○乳幼児健康診査に満足している者■②： 満足している（H23）81.4% →（R4）23件（69.7%）※下表
問 お子さんの健診を受けたときの内容や関係者の対応はいかがでしたか。（1つに○）

項目	件数	構成比
満足している	23	69.7%
満足していない	4	12.1%
無回答	0	0.0%
回答者数	27	81.8%
非該当	6	
合計	33	

※乳幼児健診を保健センターの集団健診で受けた方

○かかりつけの小児科医を持つ親■②：（H23）58.1% →（R4）19件（57.6%）※右表
問 かかりつけの医師はいますか。（1つに○）

項目	件数	構成比
小児科の医師がいる	19	57.6%
小児科以外の医師がいる	6	18.2%
いない	7	21.2%
無回答	1	3.0%
合計	33	100.0%

○乳児健診の受診率③

（H22）94.0%→（R3）100.0%

○1歳6ヶ月児健診の受診率③

（H22）87.2%→（R3）100.0%

○3歳児健診の受診率③

（H22）97.8%→（R3）100.0%

○子どもの急病時の対処方法②

項目	比率
自宅で様子をみる（安静）	77.1%
電話相談を利用する（＃8000 小児救急電話相談など）	37.1%
近隣の人や親せきに連絡し、対処方法を聞く	15.2%
すぐに医療機関に受診する	25.7%
救急車を呼ぶ	1.9%
その他	8.6%

問 夜間・休日に急にお子さんの具合が悪くなった時、どのように対処していますか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	比率
自宅で様子をみる（安静）	21	63.6%
電話相談を利用する（＃8000 小児救急電話相談など）	11	33.3%
近隣の人や親せきに連絡し、対処方法を聞く	7	21.2%
すぐに医療機関に受診する	8	24.2%
救急車を呼ぶ	2	6.1%
その他	2	6.1%
回答者数	33	

○夜間・休日の小児科救急医療機関を知っている者②：（H23）55.2% →（R4）51.5%（17件）

問 夜間・休日の小児科救急医療機関を知っていますか。（1つに○）

項目	件数	構成比
はい	17	51.5%
いいえ	16	48.5%
合計	33	100.0%

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○子どもの成長や発達について学ぶ機会がある②：（H23）98.1%→（R4）33件（100.0%）※右表

問 お子さんの成長や発達についてどこから情報を得ていますか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	比率
テレビ	13	39.4%
雑誌	6	18.2%
新聞	2	6.1%
インターネット・SNS	27	81.8%
役場・保健センター	15	45.5%
友人	14	42.4%
家族	19	57.6%
どこからも得ていない	0	0.0%
その他	1	3.0%
回答者数	33	

※「ある」100.0%＝テレビ/雑誌/新聞/インターネット/
役場/友人/家族のいずれかに○

○子どもの社会性の発達過程を知っている親

（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）82.5%

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○緊急時の対応について、対応方法を学ぶ機会が少ない

○外国人世帯の増加により、健診受診の必要性や適切な医療機関への受診について、理解を得ることが困難な場合がある

○小児医療・発達支援の専門医（かかりつけ医）を持つ家庭の減少

【目標と計画】

めざすべき目標

○子ども医療電話相談（＃8000）を知っている親の割合（3・4ヶ月児）■：（R3）77.8% →増加

○子どものかかりつけの医師がいる親の割合（3・4ヶ月児、3歳児）■：（R3）46.4% →（R4）57.6% →増加

○子どものかかりつけの歯科医師がいる親の割合（3歳児）■：（R3）28.1% →増加

○子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合（3・4ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児）■：（R3）82.5% →増加

○全出生数中の低出生体重児の割合の減少（出生1,000人あたり）→今後、現状を把握し、改善に取り組む指標

町の保健事業計画

○乳児健診（4～5ヶ月児・10～11ヶ月児）：保健師による個別相談の実施 年6回（継続）

○幼児健診（1歳6ヶ月児・3歳児）：保健師による個別相談の実施 各年3回（継続）

○1歳6ヶ月児健診、3歳児健診に心理相談員の設置：健診の場での不安に対応 各年3回（継続）

○乳幼児個別相談：臨床心理士による相談・指導 月1回（継続）

○ベビールーム 乳児健診事後指導として 親子のスキンシップ、発達の促進・改善を目的とした体操を指導 月1回（継続）

○すまいる（1～3歳児）：事後指導として発達支援・親子遊び・母子関係に関する支援を実施 月1回（継続）

○個々の世帯に応じた健診及び事後指導により支援を行う →必要に応じ実施（継続）

○両親学級において子どもの病気や救急時の対応について医師の講話を実施し、妊娠期から知識を習得できるよう支援する 年2回（継続）

①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票

⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート

⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書

⑬KDB（国保データベース） ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

㊦ ◆ライフステージ：乳幼児期 ◆領域：保健・医療（予防接種）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○感染症罹患率⑤

1歳6ヶ月児・3歳児

	麻しん	風しん	百日咳	結核
H23年度	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
R3年度	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

○6ヶ月までにBCG接種を終了している人■：（H21）100.0% →（R3）100.0%

○1歳6ヶ月までに四種混合の予防接種（第1期初回3回）を終了している人■：（H23）100% →（R3）96.4%

○1歳6ヶ月までに麻しん・風しんの予防接種を終了している人■：（H23）91.2% →（R3）92.9%

○予防接種の種類や回数について学ぶ機会がある②：（H23）99.0% →（R4）※33件（100.0%）

問 お子さんの予防接種についてどこから情報を得ていますか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	比率
テレビ	2	6.1%
雑誌	0	0.0%
新聞	0	0.0%
インターネット・SNS	8	24.2%
役場・保健センター	32	97.0%
友人	2	6.1%
家族	3	9.1%
どこからも得ていない	0	0.0%
回答者数	33	

※「ある」100.0%＝テレビ/雑誌/新聞/インターネット/
役場/友人/家族のいずれかに○

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○予防接種の種類が増加し、個別接種での実施となるため、種類や接種方法を分かり易く、適切に情報提供する必要がある

【目標と計画】

めざすべき目標

○1歳6ヶ月までに四種混合の予防接種（第1期初回3回）を終了している人の割合■③ R3：96.4% →増加

○1歳6ヶ月までに麻しん・風しんの予防接種を終了している人の割合■③ R3：92.9% →増加

町の保健事業計画

○集団接種の継続及び個別接種ができる環境の整備（医療機関、医師会との連携）

○母子手帳交付時に、「予防接種と子どもの健康」等の冊子を配布し、予防接種に関する情報提供を行う

①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票

⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート

⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書

⑬KDB（国保データベース） ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

⑤ ◆ライフステージ：乳幼児期 ◆領域：事故（SIDS含む）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○事故防止対策を実施している家庭■②：（H23）92.4%→（R4）31件（94.0%）

問 事故が起きないように注意していることがありますか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	比率
風呂場や洗濯機でおぼれないようにしている	20	60.6%
異物を飲み込まないようにしている	23	69.7%
やけどをしないようにしている	24	72.7%
転落しないようにしている	20	60.6%
特に何もしていない	2	6.1%
回答者数	33	

○乳幼児のいる家庭で風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないよう工夫した家庭（1歳6ヶ月児）■：（R3）59.1%

○乳児期にうつぶせ寝をさせている親②：（H23）20.0% →（R4）5件（15.2%）

問 乳児期にうつぶせ寝をさせていますか（させましたか）。（1つに○）

項目	件数	構成比
はい	5	15.2%
いいえ	25	75.8%
無回答	3	9.1%
合計	33	100.0%

○乳幼児揺さぶられ症候群（SIDS）を知っている②：（H23）94.3% →（R4）22件（66.7%）

問 乳幼児突然死症候群（SIDS）を知っていますか。（1つに○）

項目	件数	構成比
はい	22	66.7%
いいえ	9	27.3%
無回答	2	6.1%
合計	33	100.0%

○乳幼児揺さぶられ症候群（SIDS）を知っている親■：（R3）77.8%

○親が事故防止について学ぶ機会がある②：（H23）92.1% →（R4）28件（84.8%）※右表

問 事故防止についてどこから情報を得ていますか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	比率
テレビ	12	36.4%
雑誌	6	18.2%
新聞	1	3.0%
インターネット・SNS	20	60.6%
役場・保健センター	7	21.2%
友人	4	12.1%
家族	12	36.4%
どこからも得ていない	5	15.2%
回答者数	33	

※「ある」84.8%＝テレビ/雑誌/新聞/インターネット/
役場/友人/家族のいずれかに○

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○乳児死亡、幼児死亡について現状の維持を要する

○事故防止について学ぶ機会がある親の減少

【目標と計画】

めざすべき目標
○乳児死亡、幼児死亡の現状を維持する（R3）0.0% →現状維持 ○乳幼児のいる家庭で風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないよう工夫した家庭の割合（1歳6ヶ月児）■（R3）59.1% →増加 ○乳幼児揺さぶられ症候群（SIDS）を知っている親の割合■（R3）77.8% →増加
町の保健事業計画
○乳児相談・乳幼児健診での事故防止に関する指導の継続、パンフレット配布（継続） 3～5ヶ月児：転落・窒息 6ヶ月児：転落・やけど・誤飲・溺水 幼児：転倒・転落・やけど・切り傷・交通事故・溺水 ○事故防止、救急蘇生法に関する講習会の実施 ○妊娠期より、SIDS予防に関する情報提供及び助言指導を継続する ①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書 ⑬KDB（国保データベース） ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

- ⑦ ◆ライフステージ：学童・思春期
◆領域：栄養・食生活(食育)、運動、歯科保健、保健・医療

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○児童生徒の肥満⑨（ローレル指数より）

小学校	H23	H29	R3
太っている(%)	8.1	9.0	8.8
太りすぎ(%)	8.1	8.5	6.2

中学校	H23	H29	R3
太っている(%)	7.1	9.3	4.2
太りすぎ(%)	5.9	5.3	5.0

○肥満傾向児（肥満度が20%以上）⑩（小児生活習慣病予防健診）

(R4) 男3.2%、女3.2% （小学5年生：31人中男子1名、女子1名）

○歯科検診⑨

	年度	全校数	う歯のない者		処置完了率
			人	%	%
小学校	H23	358	77	21.5	56.9
	H29	223	97	43.5	48.0
	R3	193	75	38.9	39.8
中学校	H23	170	59	34.7	40.8
	H29	150	65	43.3	55.6
	R3	119	49	41.2	49.3

○一人平均う歯数⑨

	H20～22	H29	R3
小学校	0.4本	0.1本	0.5本
中学校	2.5本	1.7本	2.0本

○毎日朝食をとる児童生徒⑦⑧

	H23	H29	R4
小学5年(%)	91.7	86.7	91.9
中2又は中3(%)	81.3(中2)	86.8(中3)/88.1(中2)	86.8(中3)

○1日1回は家族で食事をとる児童生徒⑦⑧

	H23	H29	R4
小学5年(%)	77.0	75.6	81.0
中2又は中3(%)	82.1(中3)	57.9(中3)/76.3(中2)	63.2(中3)

○主食・主菜・副菜が揃った食事をしている児童生徒⑦⑧

朝食	H23	H29	R4
小学5年(%)	55.7	33.3	35.1
中2又は中3(%)	42.9(中3)	23.7(中3)/57.6(中2)	47.4(中3)

夕食	H23	H29	R4
小学5年(%)	90.2	77.8	89.2
中2又は中3(%)	83.9(中3)	86.8(中3)/93.2(中2)	97.4(中3)

○好き嫌いが無い児童生徒⑦⑧

	H23	H29	R4
小学5年(%)	51.7	48.9	29.7
中2又は中3(%)	33.3(中2)	52.6(中3)/32.2(中2)	26.3(中3)

○歯磨きの習慣がある児童生徒⑦⑧

朝	H23	H29	R4
小学5年(%)	88.5	75.6	92.0
中2又は中3(%)	91.1(中2)	86.8(中3)/91.5(中2)	86.8(中3)

夜	H23	H29	R4
小学5年(%)	90.2	84.4	95.0
中2又は中3(%)	87.5(中2)	86.8(中3)/88.1(中2)	97.4(中3)

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○児童生徒が生活習慣病予防健診を受診することができる③ 小学5年生（H23）86.8%→（R4）93.9% / 中学2年生（H23）95.9% →（R4）97.3% ○学校・町・食改推との連携した事業の実施 中1健康づくり教室（H23）70人→（R1）116人 / 中2郷土料理（H30）46人→（R4）33人 中3栄養教室（H23）56人→（R4）38人 / 中3お弁当実習（H23）50人→（R4）31人 ○学校保健委員会との連携 ○家庭・児童・生徒が健診結果について学び相談することができる説明会・事後指導 ○認定こども園・小学校において作物を育てる学習がある

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○小学生の肥満がやや増加している ○歯科検診後の治療率が低い ○メディアの時間が長い児童・生徒もあり、特に休み中は生活リズムが乱れがちになる ○好き嫌いが多く朝食のバランスが悪い児童・生徒がいる ○毎日の排便習慣がない児童・生徒がいる

【目標と計画】

めざすべき目標
○早寝・早起き・朝ごはん・朝うんちの推奨 ○身体を動かす習慣をつける ○メディアの利用は1日2時間未満とする ○朝食に主食・主菜・副菜が揃っている児童・生徒の割合⑦⑧：（R4）小学5年生 35.1%/中学3年生 47.4% →増加 ○う歯の処置率の割合⑨：（R4）小学校 39.8%/中学校 49.3% →増加 ○1日1回は家族で食事をする児童生徒の割合⑦⑧：（R4）小学5年生 81.0%/中学2年生63.2% →増加 ○食事を一人で食べる子どもの割合●⑦： 小学5年生：朝食18.9% 夕食0.0% →減少 中学2年生：朝食25.7% 夕食2.9% →減少 ○朝・昼・夕の三食を必ず食べることに気を付けて食事をしている子どもの割合● 小学5年生 →増加 →今後、現状値を把握し、改善に取り組む指標 ○運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合● 小学5年生 →増加 →今後、現状値を把握し、改善に取り組む指標 ○肥満傾向にある子どもの割合●⑩： 小学5年生 男子3.2%/女子3.2% →減少 ○小学生の一人平均う歯数●⑨：（R3）0.5本 →減少 ○12歳児の一人平均う歯数● →1本以下 →今後、現状値を把握し、改善に取り組む指標

町の保健事業計画
○規則正しい生活リズムを整える（睡眠・食事・活動） ○健診結果等から自身の健康状態について理解できるよう支援する ○好き嫌いを減らし、朝食を充実できるよう働きかける ○小児生活習慣病予防健診及び事後指導の実施（小学5年生・中学2年生・経過観察者）：年1回（継続） ○歯科検診 小学校中学校児童生徒全員 ○授業と連携した食育事業の開催（中学1年：健康づくり教室/2年：郷土料理（おきりこみ）講習会 /3年：栄養教室・お弁当実習他） ○食生活改善推進員による食育事業への協力体制の構築 ○食育推進会議の開催（事業把握・連携を目的に実施）：年4回

- ①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票
 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート
 ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書
 ⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

㊦ ◆ライフステージ：学童・思春期 ◆領域：休養・こころの健康、事故

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- 10代の不慮の事故数：(H21) 0人 → (R3) 0人
- 10代の自殺数：(H23) 0人 → (R3) 0人
- 幼児・学童期の死亡：(H21) 0人 → (R3) 0人
- 幼児個別相談：(H23) 小中学生(親子・担任教諭) 7人 → (R3) 小中学生(親子・担任教諭) 15人
- 思春期相談窓口：幼児個別相談にて対応 月1回
- 家庭の中で親子の会話やコミュニケーションがとれていると思う中学生⑩：(H23) 90.4% → (R4) 97.4%
- 思春期の悩みについて相談できる窓口がある③⑩
 - 幼児個別相談 月1回 (発達特性、不登校、適応の課題に関する相談が多い)
 - スクールカウンセラー 小・中学校に配置
- 種々の悩みについて専門家の支援が得られる③⑩
- 幼児個別相談 (H23) 12回 → (R3) 月1回
- こころのカウンセリング事業 (R3) 月1回
- 思春期講演会 (R3) 心の健康に関する講演会の1回開催 精神科医師による講演

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- 学童・思春期の多様化・複雑化する課題に対し、本人及び保護者への相談支援の他、小中学校の教職員や保健師等の専門職の役割分担などの協議を定期的に行うことができる仕組みが必要
- 自殺予防対策の推進、SOSの出し方教育や他者への気づきを支援する取組の強化

【目標と計画】

めざすべき目標

- 思春期の悩みについて相談できる窓口がある③⑩
 - 幼児個別相談 月1回(継続)、 思春期講演会 年1回(継続)
- 種々の悩みについて専門家の支援が得られる③⑩
 - 幼児個別相談 月1回(継続)、こころのカウンセリング事業年4回(継続)
- 自殺予防対策の推進を図る、SOSの出し方教育、ゲートキーパー養成研修の実施(新規)

町の保健事業計画

- 自殺予防対策： SOSの出し方教育、ゲートキーパー養成研修の実施(新規)
 - 悩みを相談できる体制の整備及び窓口の周知を継続する
 - 育ちと学びを支えるネットワーク事業での関係機関との連携により支援体制を強化する
- ①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票
 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート
 ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書
 ⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

㊦ ◆ライフステージ：学童・思春期 ◆領域：喫煙、飲酒（薬物含む）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業	
○喫煙・薬物・飲酒について学ぶ機会がある中学生⑧	
「ある」と回答した割合	喫煙 98.1% →(R4) 100.0%
	薬物 98.1% →(R4) 100.0%
	飲酒 88.5% →(R4) 100.0%
○家庭の中で親子の会話やコミュニケーションがとれていると思う中学生⑧： (H23) 90.4% → (R4) 97.4%	

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○喫煙・薬物・飲酒について学ぶ機会を提供しているが、定期的な機会の提供、関係機関との連携が必要である

【目標と計画】

めざすべき目標
○たばこ、薬物、アルコールに関する正しい知識の普及を図る
町の保健事業計画
○たばこ、薬物、アルコールに関する知識の普及、パンフレットの配布、講演会・研修会の実施など
○中学生の実態把握のためのアンケート調査 年1回 全学年対象（継続）
○学校保健委員会への参加

①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票

⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート

⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書

⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

- ㊟ ◆ライフステージ：学童・思春期
◆領域：リプロダクティブヘルス(生殖) (HIV・STD含む)

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○中学生性教育(エイズ予防含む) 講演会 (R3) 全生徒参加 講演会についてのアンケート⑧：自分のためになった98.2%
○十代の妊娠、出産 届出／出産：(H23) 1人／0人 → (H29) 0人／0人 → (R3) 1人／1人
○将来子供が欲しいと思う中学生⑧：(R1) 体験学習参加前93.5% → 体験学習参加後100.0%
○命の大切さについて学ぶ機会がある③： 思春期体験学習 (H23) 49人(中2全員)
○性感染症について専門職から教育を受ける機会がある③： (H24) 全校生徒 → (R3) 全校生徒
○性に関する講演会 (H24) 全校生徒 → (R3) 全校生徒 講演会についてのアンケート⑧：勉強になった9割、自分のためになった98.2%
○赤ちゃんを抱いたことがある中学生⑧： (H23) 66.0% → (R1) 58.1%

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○命の大切さ、子どもの成長を学ぶ機会の減少

【目標と計画】

めざすべき目標
○命の大切さや他者への尊重の気持ちが育めるよう支援する
○不安や悩みを表出できる環境整備を行うとともに、自己や他者への心の問題への気づきに対する支援を行う
○10代の望まない妊娠・出産の数：(R3) 1人 → 減少(0人)
○赤ちゃんを抱いたことがある中学生⑧：(R1) 58.1% → 増加
○命の大切さ・子どもの成長について学ぶ機会がある③⑩：(H23) 中2全員 → 継続
○性教育・性感染症について専門職から教育を受ける機会がある中学生③：(R3) 全校生徒 → 継続
町の保健事業計画
○思春期体験学習(継続) 乳幼児とのふれあい体験の機会を設定する
○性教育に関する講演会の継続実施

- ①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票
⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート
⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書
⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

⑤ ◆ライフステージ：青壮年期 ◆領域：栄養・食生活（食育）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○体格指数（BMI）①⑩

<若年世代>

	性別	実施数	BMI18.5未満		BMI25.0以上	
			人	%	人	%
H23 健康生活アンケート (20歳～39歳)	男	259	13	5.0	62	23.9
	女	268	43	16.0	33	12.3
	計	527	56	10.6	95	18.0
H29 若年者健診 (19歳～39歳)	男	26	2	7.7	9	34.6
	女	28	10	35.7	3	10.7
	計	54	12	22.2	12	22.2
R4 若年者健診 (19歳～39歳)	男	5	1	20.0	1	20.0
	女	14	2	14.3	3	21.4
	計	19	3	15.8	4	21.1
R4 健康生活アンケート (20歳～39歳)	男	102	5	4.9	31	30.4
	女	109	11	10.1	21	19.3
	計	211	16	7.6	52	24.6

<中年世代>

	性別	実施数	BMI18.5未満		BMI25.0以上	
			人	%	人	%
H23 健康生活アンケート (40歳～64歳)	男	611	14	2.3	177	29.0
	女	656	61	9.3	121	18.4
	計	1267	75	5.9	298	23.5
H29 はつらつ健診 (40歳～64歳)	男	96	5	5.2	26	27.1
	女	83	10	12.0	17	20.5
	計	179	15	8.4	43	24.0
R4 特定健診 (40歳～74歳)	男	197	8	4.1	66	33.5
	女	191	19	9.9	40	20.9
	計	388	27	7.0	106	27.3
R4 特定健診 (40歳～64歳)	男	70	2	2.9	25	35.7
	女	49	6	12.2	15	30.6
	計	119	8	6.7	40	33.6
R4 健康生活アンケート (40歳～74歳)	男	585	23	3.9	177	30.3
	女	670	66	9.9	124	18.5
	計	1255	89	7.1	301	24.0

○主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人①

(H23) 57.4% → (R4) 44.1% (20～59歳)

○20代女性のやせの人口●①：(H23) 16.5% → (R4) 14.5% ※BMI18.5未満

○20～60歳代(20・30歳代)男性の肥満者●① ※BMI25.0以上

20～60歳代 (H23) 27.6% → (R4) 30.8%(20～59歳)

20・30歳代 (H22) 23.9% → (R4) 30.4%

○20～60歳代(40～60歳代)女性の肥満者●①

20～60歳代 (H23) 16.6% → (R4) 19.9%

40～60歳代(40～64歳) (H23) 18.4% → (R4) 20.0%(40～69歳)

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○朝食を全く食べない人① 20代 男性(H23) 23.7% → (R4) 12.8% 30代 男性(H23) 14.8% → (R4) 36.4% 20～64歳 男女(H23) 8.6% → (R4) 13.4%(20～59歳) ○毎日朝食を食べる人のうち、主食・主菜・副菜が揃っている①：(H23) 61.9% → (R4) 52.8%(20～59歳) ○毎食、漬け物以外の野菜料理を食べる①：(H23) 61.9% → (R4) 58.9%(20～59歳) ○1日最低1食は食事に30分以上時間をかける① (H23) 41.0% (R4) (20～59歳)朝食2.9% 昼食7.4% 夕食32.2% →増加 ※参考 (60～74歳)朝食6.4% 昼食9.9% 夕食32.4% ○賞味期限と消費期限の意味を正しく理解している① (H23) 83.1% →(R4) 88.4%(20～59歳) ※参考(60～74歳) 86.9% ○食品を購入するとき栄養成分表示を参考にする① (H23)24.8% → (R4) 28.8%(20～59歳) ※参考 28.0%(60～74歳) ○自分の食生活に問題があると思う① (H23)78.9% → (R4) 41.8%(20～59歳) ※参考 20.0%(60～74歳) ○食生活改善推進員を知っている① (H23)29.5% →(R4) 22.2%(20～59歳) ※参考 29.5%(60～74歳) ○「食事バランスガイド」を知っている① (H23)31.0% →(R4) 46.8%(20～59歳) ※参考 25.2%(60～74歳) ○「いただきますの日」を知っている① (H23) 9.2% →(R4) 8.1%(20～59歳) ※参考 4.1%(60～74歳)

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○20～39歳男女ともにBMI25.0以上(肥満)の人数が増加傾向① ○50歳代男性、30歳代女性の「肥満」の割合が他の年代に比べ高い ○20歳代女性の「低体重(やせ)」の割合が高い① ○青壮年期の朝食欠食者が増加① ○毎食、漬け物以外の野菜料理を食べる割合が増えていない(横ばい)

【目標と計画】

めざすべき目標	
○適正体重を維持できるよう支援する	
○野菜のおかず（副菜）を増やす	
○働き盛り世代男性の朝食の欠食を減らす	
○適正体重を維持している人の割合●①⑩	肥満（BMI25以上） 20～60歳代男性 （R4） 30.4% →減少 20～60歳代女性 （R4） 20.0% →減少 20代のやせ（BMI18.5未満） （R4） 14.5% →減少
○主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合●①	（R4） 52.8% →増加
○朝食欠食者の割合 20歳以上男女：	（R4） 13.4% →減少
○料理の味付けにうす味を心がける	→今後、現状を把握し、改善に取り組む指標
町の保健事業計画	
○事業参加の少ない青壮年期への対応が不十分なので強化する	
○医療機関とも連携をとり、重症化しないよう働きかける	
○自分の身体を意識して、20代から健康づくりができるような支援を考える	
○手軽な野菜メニューを広報等で紹介する	
○健康相談：月1回（継続）	
○健康教室：年2回程度（病態別）	
○食生活改善推進員の養成及び育成：定例研修会 月1回 + 事業研修10回程度、推進員養成講座の実施	
○訪問栄養指導：随時	
○健康福祉フェスティバル（食改推との連携）：年1回（継続）	
○広報いでゆを活用し、メニューの紹介等を行う：月1回（継続）	
○特定保健指導対象者に対する支援	
○「いただきますの日」の普及	
○食事バランスガイドの普及	
①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書 ⑬KDB（国保データベース） ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報	

② ◆ライフステージ：青壮年期 ◆領域：運動

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○1回の運動時間●①： 1日30分週2回以上 (H23) 26.0% → (R4) 27.7%(20～59歳)

問 仕事以外に、日頃1回30分以上の運動をしていますか。(1つに○)

項目		ほとんど毎日 (1週間に5～7 日)している	時々 (1週間に2～ 4日)している	たまに (1か月に1～ 4日程度) している	ほとんど (まったく) していない	無回答	合計
全体	件数	197	374	282	611	17	1,481
	%	13.3%	25.3%	19.0%	41.3%	1.1%	100.0%
20歳～59歳	件数	61	141	155	369	4	730
	%	8.4%	19.3%	21.2%	50.5%	0.5%	100.0%
60歳～74歳	件数	134	230	123	240	12	739
	%	18.1%	31.1%	16.6%	32.5%	1.6%	100.0%

※「している」27.7%＝「ほとんど毎日」＋「時々」

○運動を心がけている割合 (R4) 37.5%(20～59歳全体)

男性(H23) 47.1% → (R4) 40.2%(20～59歳)

女性(H23) 40.9% → (R4) 35.1%(20～59歳)

問 日頃から運動をするように心がけていますか。(1つに○)

項目		心がけて いる	心がけて いない	無回答	合計
全体	件数	705	749	27	1,481
	%	47.6%	50.6%	1.8%	100.0%
20歳～59歳	件数	274	451	5	730
	%	37.5%	61.8%	0.7%	100.0%
60歳～74歳	件数	426	294	19	739
	%	57.6%	39.8%	2.6%	100.0%

○ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の認知度●① (H24)11.2%→(R4)16.3%(20～59歳)

問 ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を知っていますか。(1つに○)

項目		知っている	知らない	無回答	合計
全体	件数	246	1,206	29	1,481
	%	16.6%	81.4%	2.0%	100.0%
20歳～59歳	件数	119	607	4	730
	%	16.3%	83.2%	0.5%	100.0%
60歳～74歳	件数	125	590	24	739
	%	16.9%	79.8%	3.2%	100.0%

H24追加アンケート		H29 はつらつ健診		R4 健康生活アンケート	
対象	%	対象	%	対象	%
男(20～39歳)	10.7	男(19～39歳)	7.7	男(20～39歳)	11.8
女(")	11.7	女(")	17.9	女(")	12.8
計	11.2	計	13.0	計	12.3
男(40～64歳)	9.5	男(40～64歳)	6.3	男(40～59歳)	9.1
女(")	12.5	女(")	13.3	女(")	25.8
計	11.1	計	9.5	計	17.9

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業								
○日常生活における歩数(H24)① ※下表参照								
(H24)	項目		3,000歩未満 (0～1.8km 未満)	3,000～4,999 歩(1.8～3.0km 未満)	5,000～6,999 歩(3.0～4.2km 未満)	7,000～8,999 歩(4.2～5.4km 未満)	9,000歩以上 (5.4km以上)	無回答
	男性	%	27.7	25.1	21.2	12.7	10.9	2.4
	女性	%	33.6	28.1	23.4	7.8	6.1	1.0
問 日常生活で1日に何歩(何km)歩いていますか。(1つに○)								
(R4)	項目		3,000歩未満 (0～1.8km 未満)	3,000～4,999 歩(1.8～3.0km 未満)	5,000～6,999 歩(3.0～4.2km 未満)	7,000～8,999 歩(4.2～5.4km 未満)	9,000歩以上 (5.4km以上)	無回答
	20歳～59歳	件数	269	159	134	70	72	26
		%	36.8	21.8	18.4	9.6	9.9	3.6
								合計
								730
								100.0
○日常生活における歩数●①								
(H23) 男性 7,000歩以上23.6% → (R4) 24.2%(20～59歳)、15.7%(60～74歳)								
(H23) 女性 7,000歩以上13.9% → (R4) 15.3%(20～59歳)、11.5%(60～74歳)								
○意識的に運動を心がけている人●①:								
問 日頃から運動をするように心がけていますか。(1つに○)								
(H23) 男性 47.1% → (R4) 40.2%(20～59歳)、54.4%(60～74歳)								
(H23) 女性 40.9% → (R4) 35.1%(20～59歳)、60.5%(60～74歳)								
○運動する仲間がいる①								
問 一緒に運動する仲間はいますか。(サッカー、ウォーキング、バレーボールなど) (1つに○)								
(H23) 男性 26.4% → (R4) 26.8%(20～59歳)、24.1%(60～74歳)								
(H23) 女性 21.9% → (R4) 21.7%(20～59歳)、24.5%(60～74歳)								

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○実際に定期的に運動している人は増加しているが、運動を心がけている人の割合は減少している
○日常生活における歩数が少なめ(3,000歩未満)の割合が男女ともに増加傾向
○手軽に運動ができる場所や施設がない

【目標と計画】

めざすべき目標
○運動習慣のある人の割合●① (1日30分以上の運動を週2回以上続けている人の割合)
(R4) 27.7% (20～59歳) →増加
○日常生活における歩数の割合●①
男性7,000歩以上 (R4) 24.2%(20～59歳) →増加 15.7%(60～74歳) →増加
女性7,000歩以上 (R4) 15.3%(20～59歳) →増加 11.5%(60～74歳) →増加
○ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の認知している町民の割合●① (R4) 16.3% →増加
町の保健事業計画
○健康づくりに必要な運動に関する知識の普及(広報への掲載、リーフレットの配布)
○運動に取り組みやすい環境の整備(運動に関する健康教室・講座等の開催)
○町民のニーズを把握し、関係機関と連携して運動できる環境の整備を行う
○サイクリングロードの案内や既存のウォーキングマップの活用を図る
①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票
⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート
⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書
⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

㊦ ◆ライフステージ：青壮年期 ◆領域：休養・こころの健康

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○ストレスや悩みを相談できる相手がいる (H22)77.5% → (R4) ①81.2% (20～59歳)

○最近1ヶ月間にストレスを感じた人●①：(H23)70.9% → (R4)75.6%(20～59歳)

問 最近1か月間にストレスを感じましたか。(1つに○)

項目		大いに 感じた	ある程度 感じた	あまり感じ なかった	ほとんど 感じない	無回答	合計
全体	件数	254	689	364	166	8	1,481
	%	17.2%	46.5%	24.6%	11.2%	0.5%	100.0%
20歳～59歳	件数	171	381	125	50	3	730
	%	23.4%	52.2%	17.1%	6.8%	0.4%	100.0%
60歳～74歳	件数	81	304	235	114	5	739
	%	11.0%	41.1%	31.8%	15.4%	0.7%	100.0%

※「感じた」75.6%＝「大いに感じた」＋「ある程度感じた」

○睡眠による休養が十分にとれていない人●①：(H23)16.5% → (R4)33.4%(20～59歳)

問 いつもとっている睡眠で休養が十分にとれていると思いますか。(1つに○)

項目		休養は 十分である	まあ休養 できている	休養は 不足がち である	休養不足 である	無回答	合計
全体	件数	349	736	307	87	2	1,481
	%	23.6%	49.7%	20.7%	5.9%	0.1%	100.0%
20歳～59歳	件数	133	352	182	62	1	730
	%	18.2%	48.2%	24.9%	8.5%	0.1%	100.0%
60歳～74歳	件数	210	380	124	24	1	739
	%	28.4%	51.4%	16.8%	3.2%	0.1%	100.0%

※「とれていない」33.4%＝「休養不足である」＋「休養は不足がちである」

○自殺者の状況●△：(H21)3人 → (R3)2人

○睡眠のために睡眠補助剤としてアルコールを使うことのある人①：(H23)14.4% → (R4)14.9%(20～59歳)

問 よく眠れるように何か使っていますか。(あてはまるものすべてに○)

項目		アルコール	睡眠薬	精神 安定剤	使って いない	その他	無回答	回答者数
全体	件数	203	94	38	1,149	25	9	1,481
	%	13.7%	6.3%	2.6%	77.6%	1.7%	0.6%	
20歳～59歳	件数	109	31	12	582	14	3	730
	%	14.9%	4.2%	1.6%	79.7%	1.9%	0.4%	
60歳～74歳	件数	92	62	25	559	11	6	739
	%	12.4%	8.4%	3.4%	75.6%	1.5%	0.8%	

○健康や医療サービスに関係したボランティア活動に関わっている人●①：(H24)7.5% → (R4)5.8%(20～59歳)

問 健康や医療にサービスに関係したボランティア活動をしていますか。(1つに○)

項目		している	していない	無回答	合計
全体	件数	98	1,378	5	1,481
	%	6.6%	93.0%	0.3%	100.0%
20歳～59歳	件数	42	686	2	730
	%	5.8%	94.0%	0.3%	100.0%
60歳～74歳	件数	55	681	3	739
	%	7.4%	92.2%	0.4%	100.0%

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○悩みを相談できる仲間がいる①： (H23) 82.5% →(R4) 81.2%(20～59歳)

問 悩みを相談できる人がいますか。 (1つに○)

項目		いる	いない	無回答	合計
全体	件数	1,184	284	13	1,481
	%	79.9%	19.2%	0.9%	100.0%
20歳～59歳	件数	593	134	3	730
	%	81.2%	18.4%	0.4%	100.0%
60歳～74歳	件数	581	148	10	739
	%	78.6%	20.0%	1.4%	100.0%

○自分と地域のつながりが強いほうだと思う人●①： (H24) 35.9% →(R4)35.1%

問 自分と地域のつながりは強い方だと思いますか。 (1つに○)

項目		思う	思わない	無回答	合計
全体	件数	529	937	15	1,481
	%	35.7%	63.3%	1.0%	100.0%
20歳～59歳	件数	256	471	3	730
	%	35.1%	64.5%	0.4%	100.0%
60歳～74歳	件数	269	459	11	739
	%	36.4%	62.1%	1.5%	100.0%

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○相談相手のいる人は横ばいだが、ストレスを感じている人は増加している

○社会資源に乏しい

○自殺死亡者は横ばい

【目標と計画】

めざすべき目標

○睡眠による休養を十分とれていない人の割合●①： (R4) 33.4%(20～59歳) →減少

○最近1ヶ月間にストレスを感じた人の割合●①： (R4) 75.6%(20～59歳) →減少

○悩みを相談できる仲間がいる人の割合①： (R4) 81.2%(20～59歳) →増加

○健康づくりを目的とした活動に主体的に関わっている町民の割合●①： (R4) 5.8% →増加(20%)

○自殺対策の推進 自殺死亡者数：(R3) 2人 →減少

○十分に睡眠をとり、適度な休養、ストレスの解消方法を身に付ける

○身近に相談相手を持ち、不安や悩みを表出する

○行政の相談窓口や医療機関等の専門職による支援を行う

町の保健事業計画

○普及啓発事業(相談窓口の周知)(継続)

○こころのカウンセリング：年4回(継続) 専門職による相談支援事業の実施を継続する

○ゲートキーパー養成実施：年1回(新規) 地域で孤立する心配のある人に対する見守りや声掛けを行う環境の整備

①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票

⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート

⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書

⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

⑦ ◆ライフステージ：青壮年期～高齢期 ◆領域：喫煙

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○妊娠届出時アンケート： 妊婦の喫煙⑭ (H22) 6.4% → (R3) 3.0%

○COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度●①

(H24)23.3% → (R4)28.6%(20～59歳) / 24.8%(60～74歳) ※下表

問 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) を知っていますか。(1つに○)

項目		知っている	知らない	無回答	合計
全体	件数	395	1,047	39	1,481
	%	26.7%	70.7%	2.6%	100.0%
20歳～59歳	件数	209	512	9	730
	%	28.6%	70.1%	1.2%	100.0%
60歳～74歳	件数	183	527	29	739
	%	24.8%	71.3%	3.9%	100.0%

○喫煙率●①

男性(H23)41.5% → (R4) 32.7%(20～59歳) / 22.1%(60～74歳)

女性(H23)15.8% → (R4) 14.7%(20～59歳) / 12.0%(60～74歳)

全体 (R4) 23.2%(20～59歳) / 16.8%(60～74歳)

※参考：(R3)⑫ 75歳以上 男性13.1%/女性6.7%

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○女性の喫煙者は大きく減少していない①

○COPDの認知度が大きく増大しない(微増) ①

○未成年者の喫煙状況、受動喫煙の機会を有する者の割合が未把握

○受動喫煙防止対策未実施の施設の割合が未把握

【目標と計画】

めざすべき目標

○成人の喫煙率の減少●①：(R4) 23.7% →減少

○COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度●①：(R4) 28.6%(20～59歳) →増加

○妊娠中の喫煙をなくす●① (R3) 3.0% →減少 (0.0%)

町の保健事業計画

○喫煙率を更に減少させるために、妊婦・男性を中心にたばこの影響について普及啓発していくことが必要である

○喫煙や受動喫煙の影響について正しい知識を得られる機会を設け、普及啓発を行う

○妊娠中、未成年者の喫煙をなくすために教育部局、医療機関、地域で協力できる体制を整備する

○地域・事業所・各種団体等の取り組みについて、禁煙や分煙等の積極的な推進を図る

①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票

⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート

⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書

⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

⑤ ◆ライフステージ：青壮年期～高齢期 ◆領域：飲酒

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○アルコールを飲む頻度① ※下表

毎日 (H23) 19.8% (20～64歳) → (R4) 18.1% (20～59歳) / 21.1% (60～74歳)
 週4～6回 (H23) 8.6% (20～64歳) → (R4) 10.7% (20～59歳) / 8.1% (60～74歳)
 週1～3回 (H23) 16.7% (20～64歳) → (R4) 19.5% (20～59歳) / 12.0% (60～74歳)
 飲まない (H23) 51.5% (20～64歳) → (R4) 51.2% (20～59歳) / 56.8% (60～74歳)

問 1週間に何日くらいお酒を飲みますか。(1つに○)

(R4)	項目	毎日	週4～6日	週1～3日	飲まない	無回答	合計
全体	件数	289	140	234	799	19	1,481
	%	19.5%	9.5%	15.8%	54.0%	1.3%	100.0%
20歳～59歳	件数	132	78	142	374	4	730
	%	18.1%	10.7%	19.5%	51.2%	0.5%	100.0%
60歳～74歳	件数	156	60	89	420	14	739
	%	21.1%	8.1%	12.0%	56.8%	1.9%	100.0%

○アルコールをやめたいと思っている人① ※下表①

(H23) 3.2% (20～64歳) → (R4) 3.1% (20～59歳) / 3.3% (60～74歳)

○アルコールを減らしたい人① ※下表①

(H23) 27.5% (20～64歳) → (R4) 23.0% (20～59歳) / 20.3% (60～74歳)

(H23) 25.3% (20～39歳) → (R4) 13.7% (20～39歳)

(H23) 28.4% (40～64歳) → (R4) 26.5% (※40～69歳)

問 飲酒についてどう思いますか。(1つに○)

表① (R4)	項目	やめたいと思う	量を減らしたいと思う	このままでよい	無回答	回答者数	非該当	合計
全体	件数	21	143	498	1	663	818	1,481
	%	3.2%	21.6%	75.1%	0.2%	100.0%		
20歳～59歳	件数	11	81	260	0	352	378	730
	%	3.1%	23.0%	73.9%	0.0%	100.0%		
60歳～74歳	件数	10	62	232	1	305	434	739
	%	3.3%	20.3%	76.1%	0.3%	100.0%		

○多量飲酒の割合●① ※3合以上

男性 (H23) 15.4% (20～64歳) → (R4) 23.1% (20～59歳) / 9.9% (60～74歳)

女性 (H23) 3.2% (20～64歳) → (R4) 6.5% (20～59歳) / 4.4% (60～74歳)

○妊婦の飲酒率■①①：(H23) 14.3% → (R3) 3.0%

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○アルコールを毎日飲む人の割合が減少していない(横ばい)

○アルコールを減らしたい人の割合が減少している

○多量飲酒の男性(20～59歳)の割合が高い

○未成年者の飲酒の割合の未把握

【目標と計画】

めざすべき目標
○アルコールを減らしたいと思う人の割合①：（R4）23.0%(20～59歳)/20.3%(60～74歳) →増加 ○生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人（1日当たりのアルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の人）の割合●①：多量飲酒の割合（R4）男性23.1%/女性6.5%(20～59歳) →減少 ○妊娠中の飲酒をなくす⑩：（R3）3.0% →減少（0.0%）
町の保健事業計画
○飲酒が健康に及ぼす影響と適正飲酒について、正しい知識の普及啓発を行う ○妊娠中の飲酒が健康に及ぼす影響について、面談や訪問、両親学級等で指導を行う ○教育部局との連携により、飲酒による心身への影響について正しい知識の普及啓発を行う ①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書 ⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

㊦ ◆ライフステージ：青壮年期～高齢期 ◆領域：歯科保健

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○60歳代における咀嚼良好者①：(H24) 75.9% → (R4) ①52.2%(60～69歳)

○60歳で24歯以上の自分の歯を有する人①：(H24) 49.1%(60～64歳) → (R4) 48.8%(60～69歳)

○40歳で喪失歯のない人①：(H24) 55.6% → (R4) 57.7%(40～49歳)

○定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける人●①：(H23) 24.8% → (R4) 38.6%(20～59歳)、40.5%(60～74歳)

問 定期検診（検診・歯石除去・歯面清掃）を受けていますか。（1つに○）

項目		受けている	受けていない	無回答	合計
全体	件数	588	881	12	1,481
	%	39.7%	59.5%	0.8%	100.0%
20歳～59歳	件数	282	441	7	730
	%	38.6%	60.4%	1.0%	100.0%
60歳～74歳	件数	299	435	5	739
	%	40.5%	58.9%	0.7%	100.0%

○歯間清掃用具を使用している人の増加●①

40歳 (H23) 28.2% → (R4) 男性30.9% / 女性60.7% (全体46.8%) ※40～49歳

50歳 (H23) 32.3% → (R4) 男性37.4% / 女性64.9% (全体52.2%) ※50～59歳

○喫煙が歯周疾患に及ぼす影響について知っている人●①

(H20) 41.7% → (R4) 41.6%(20～59歳) / 24.9%(60～74歳) ※参考 33.2%(20～74歳)

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○60歳で24本以上の残存歯のある人の割合が増大していない(横ばい)

○60歳代の咀嚼良好者が減少している

○歯周疾患と喫煙の関係を知っている人の割合は、青壮年期では横ばいであるが、高齢期では少ない

○自分の歯を有する人の割合のうち、「80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の増加」について未把握

○定期的に歯科健診を受けている人、40歳代でかかりつけ歯科医をもつ人の割合について未把握

【目標と計画】

めざすべき目標

○自分の歯を有する人の割合

60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の割合●①：(R4) 48.8% → 増加

40歳で喪失歯のない人の割合●①：(R4) 57.7% → 増加

○歯周病予防を行っている人の割合：

20～59歳で定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける人の割合●①：(R4) 38.6% → 増加

40歳代で歯間清掃用具を使用する人の割合●①：(R4) 46.8% → 増加

○喫煙により歯周病にかかりやすくなることを知っている人の割合：(R4) 33.2% → 増加

○60歳代で食事中にムセたりすることがない人の割合①(60～69歳)：(R4) 52.2% → 増加

町の保健事業計画
○歯科・口腔に関する正しい知識の普及を図り、予防のための口腔清掃方法に関する情報提供及び健康教育を行う ○若年世代に対し定期健診の必要性を周知する ○健康増進事業における歯周疾患健診の実施について検討する（新規） ○妊婦を対象とした歯科健診の実施について検討する（新規） ○高齢期における口腔機能の低下を予防するため、歯周疾患・咀嚼・嚥下等に関する健康教育を行う
①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書 ⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

㊦ ◆ライフステージ：青壮年期～高齢期 ◆領域：保健・医療（糖尿病・循環器）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- 脳血管疾患の年齢調整死亡率（人口10万あたり）男女：（R3）33.2 ※群馬県人口動態統計概況
- 虚血性心疾患の年齢調整死亡率（人口10万あたり）男女：（R3）398.6 ※群馬県人口動態統計概況
- メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍（40～74才）●⑬：（R3）該当15.9% 予備軍11.0%
- 高血圧の改善 ●⑬：（R3）高血圧治療者：国保6.5%、後期高齢23.6%
- LDLコレステロール160mg/dl以上の人●⑬
（R3）国保60人（男性30人／女性30人）／ 後期高齢22人（男性6人／女性16人）
- 総コレステロール240mg/dl以上の人●⑬
（R3）国保41人（男性32人／女性9人）／ 後期高齢21人（男性14人／女性7人）
- 糖尿病腎症による年間新規透析導入患者数●：（H20）2人 → （H23）1人 → （R4）0人
- 男性BMI25.0以上●①：（H23）27.6% → （R4）34.4%（20～59歳）／ 26.2%（60～74歳）
- 女性BMI25.0以上●①：（H23）16.6% → （R4）19.6%（20～59歳）／ 17.6%（60～74歳）
- 1年に1度、自分の健康状態を確認する人①：（H23）71.2% → （R4）56.8%（20～59歳）／ 66.3%（60～74歳）
- 血糖コントロール指標におけるコントロール不良者数●⑬：（R3）国保8人、後期高齢6人（合計14人）
JDS値8.0%以上 町：（H24）1.6%
- 糖尿病有病者数（40～74才）●⑬：（R3）男性154人、女性82人 合計236人
- メタボリックシンドロームの概念を知っている割合①
（H23）80.6% → （R4）74.7%（20～59歳）／ 65.9%（60～74歳）
- 特定健康診査・特定保健指導の実施率●⑬：（R3）健診39.2% ／ 指導32.7%

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- BMIによる肥満の割合は、増加傾向
- 虚血性心疾患の年齢調整死亡率の増加

【目標と計画】

めざすべき目標
○脳血管疾患の年齢調整死亡率●（人口10万あたり）男女（R3）33.2人 →減少 ※群馬県人口動態統計概況 ○虚血性心疾患の年齢調整死亡率●（人口10万あたり）男女（R3）398.6人 →減少 ※群馬県人口動態統計概況 ○高血圧の改善●⑬20歳以上男女（R3）30.1% →今後、現状を把握し、改善に取り組む指標 ○脂質異常症●⑬ 総コレステロール240mg/dl以上：男性46人／女性16人 →減少 →今後、現状を把握し、改善に取り組む指標 LDLコレステロール160mg/dl以上： 男性36人／女性46人 →減少 →今後、現状を把握し、改善に取り組む指標 ○メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の減少●⑬ 40～79歳 （R3）該当者15.9% →減少、（R3）予備軍11.0% →減少 ○特定健康診査の実施率●⑬ （R3）39.2% →増加 ○特定保健指導実施率●⑬ （R3）32.7% →増加 ○合併症（糖尿病腎症による年間新規透析導入患者数）の減少●⑬（R3）0人 →維持 ○糖尿病治療継続者の割合●⑬： 国保215人／後期高齢363人（合計578人）→維持 →今後、現状を把握し、改善に取り組む指標 ○血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合●⑬：（国保8人／後期高齢6人） HbA1cがJDS値8.0%（NGSP値8.4%）以上の者の割合 （R3）13人（人数のみ把握） →減少 ○糖尿病有病者●⑬： 40～74歳（R3）男性154人／女性82人（計236人） →増加の抑制
町の保健事業計画
○糖尿病、循環器疾患を正しく理解し予防するための情報提供及び健康教育を行う ○広報等を活用し、生活習慣の予防に関する知識の普及啓発及び健康教育を行う ○世界糖尿病デー等イベントを活用した啓発活動を行う ○特定健康診査・特定保健指導の受診率向上のための普及啓発等の取り組みを行う ○生活習慣病予防のため、年に一度の健康診断の受診により、自身の健康状態を把握できるよう支援する ○健診結果に基づき、生活習慣の改善に努められるよう個々に応じた支援を行う ○合併症及び重症化予防のための取組を強化する ○肥満予防・メタボリックシンドローム予備軍に対する健康教育を行う
①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書 ⑬KDB（国保データベース） ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

㊦ ◆ライフステージ：青壮年期～高齢期 ◆領域：保健・医療（がん）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○がん検診受診率(%)③

(H23)		胃	大腸	肺	子宮	乳
	国	9.2	18.0	17.0	23.9	18.3
	県	8.3	20.2	28.6	29.9	23.1
	町	7.7	15.0	7.0	14.9	19.9

(R3)		胃	大腸	肺	子宮	乳
	町	4.4	7.9	5.9	4.0	6.2

○悪性新生物の年齢調整死亡率（人口10万対）の減少：（R3）382 →減少 ※群馬県人口動態統計概況

○がん検診精密検査対象者が精密検査を受ける割合③

胃 男性（H23）81.8% →（R3）100.0% ／ 女性（H23）78.6% →（R3）100.0%
 大腸 男性（H23）92.9% →（R3）53.8% ／ 女性（H23）100% →（R3）75.0%
 肺 男性（H23）100% →（R3）88.9% ／ 女性（H23）100% →（R3）83.3%
 子宮 （H23）100% →（R3）100.0%
 乳 （H23）100% →（R3）100.0%

○がん検診要精検者が検査を受けるよう指導が受けられる③：（H22）100.0% →（R3）100.0%

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- ・がん検診の受診率が低い
- ・精密検査を受診しない人が増えている

【目標と計画】

めざすべき目標

○がん検診の受診率の向上③

胃 （R3）4.4% →増加 子宮（R3）4.0% →増加
 大腸（R3）7.9% →増加 乳 （R3）6.2% →増加
 肺 （R3）5.9% →増加

○悪性新生物の年齢調整死亡率（人口10万対）の減少 （R3）382 →減少 ※群馬県人口動態統計概況

○青壮年期段階より前の学童・思春期におけるがん教育の充実と強化

町の保健事業計画

○がんに対する正しい知識を普及する（広報やイベントの機会を活用した普及啓発資料の配布）

○がん検診の受診率を向上させるための対策を強化する（新20歳や40歳への個別通知、節目年齢への個別通知、広報等）

○小中学校と連携し、学童・思春期から「がん教育」を実施することにより、がんの予防や早期発見の重要性について周知する

○精密検査の受診率向上のため、未受診者の把握に努め、受診勧奨を行う

○医療機関等の関係機関との連携により、適切な検診の実施に繋がるよう精度管理を強化する

①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票

⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート

⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書

⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

① ◆ライフステージ：高齢期 ◆領域：栄養・食生活（食育）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○体格指数（BMI）について①⑩

		65歳以上			65歳以上		
		H23にっこり健診			H29にっこり健診		
		受診数	人	%	受診数	人	%
BMI18.5未満	男	279	17	6.1%	288	15	5.2%
	女	331	32	9.7%	429	43	10.2%
	計	610	49	8.0%	717	58	8.1%
BMI25.0以上	男	279	71	25.4%	288	92	31.9%
	女	331	90	27.2%	429	90	21.0%
	計	610	161	26.4%	717	182	25.4%

		65～74歳			75歳以上			65歳以上			60～74歳		
		R4特定健診			R4後期高齢者健診			R4 特定+後期			R4 健康生活アンケート		
		受診数	人	%	受診数	人	%	受診数	人	%	回答数	人	%
BMI18.5未満	男	127	6	4.7%	177	12	6.8%	304	18	5.9%	344	18	5.2%
	女	142	13	9.2%	270	26	9.6%	412	39	9.5%	392	37	9.4%
	計	269	19	7.1%	447	38	8.5%	716	57	8.0%	739	55	7.4%
BMI25.0以上	男	127	41	32.3%	177	41	23.2%	304	82	27.0%	344	90	26.2%
	女	142	25	17.6%	270	64	23.7%	412	89	21.6%	392	69	17.6%
	計	269	66	24.5%	447	105	23.5%	716	171	23.9%	739	159	21.5%

○適正体重者の割合①⑩

		65歳以上			65歳以上		
		H23にっこり健診			H29にっこり健診		
		受診数	人	%	受診数	人	%
適正 (18.5以上 25.0未満)	男	279	191	68.5%	288	181	62.8%
	女	331	209	63.1%	429	296	69.0%
	計	610	400	65.6%	717	477	66.5%

		65～74歳			75歳以上			65歳以上			60～74歳		
		R4特定健診			R4後期高齢者健診			R4 特定+後期			R4 健康生活アンケート		
		受診数	人	%	受診数	人	%	受診数	人	%	回答数	人	%
適正 (18.5以上 25.0未満)	男	127	80	63.0%	177	124	70.1%	304	204	67.1%	344	232	67.4%
	女	142	104	73.2%	270	180	66.7%	412	284	68.9%	392	278	70.9%
	計	269	184	68.4%	447	304	68.0%	716	488	68.2%	739	513	69.4%

○アルブミン値について⑩

		65歳以上			65歳以上		
		H23にっこり健診			H29にっこり健診		
		受診数	人	%	受診数	人	%
4.0g/dℓ以下	男	279	78	28.0%	288	67	23.3%
	女	331	72	21.8%	429	98	22.8%
	計	610	150	24.6%	717	165	23.0%

		65～74歳			75歳以上			65歳以上		
		R4特定健診			R4後期高齢者健診			R4 特定+後期		
		受診数	人	%	受診数	人	%	受診数	人	%
4.0g/dℓ以下	男	127	4	3.1%	177	41	23.2%	304	45	14.8%
	女	142	2	1.4%	270	50	18.5%	412	52	12.6%
	計	269	6	2.2%	447	91	20.4%	716	97	13.5%

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○貧血者の割合

		65～74歳			75歳以上			65歳以上		
ヘモグロビン値(g/dl)		R4特定健診			R4後期高齢者健診			R4 特定＋後期		
		受診数	人	%	受診数	人	%	受診数	人	%
B 12.1～13.0	男	127	7	5.5%	177	16	9.0%	304	23	7.6%
C ～12.0			1	0.8%		11	6.2%		12	3.9%
B＋C			8	10.2%		27	15.3%		35	11.5%
B 11.1～12.0	女	142	3	2.1%	270	17	6.3%	412	20	4.9%
C ～11.0			5	3.5%		7	2.6%		12	2.9%
B＋C			8	5.6%		24	15.3%		32	7.8%
	計	269	16	5.9%	447	51	11.4%	716	67	9.4%

○主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者①

(H23) 57.4% → (R4) 68.7%(60～74歳)

○適正体重者の割合⑩ (65歳以上)

(BMI: 18.5 ≤ 適正 < 25.0)

男性 (H23) 68.1% → (H29) 62.8% → (R4) 67.1%

女性 (H23) 63.1% → (H29) 69.0% → (R4) 68.9%

全体 (H23) 65.4% → (H29) 66.5% → (R4) 68.2%

○貧血者の割合(B2・C→B・C)⑩ (65歳以上)

男性 (H23) 28.0% → (R4) 11.5%

女性 (H23) 13.3% → (R4) 7.8%

全体 (H23) 13.4% → (R4) 9.4%

○低アルブミン値の割合⑩ (アルブミン4g/dl以下) (65歳以上)

男性 (H23) 28.0% → (H29) 23.3% → (R4) 14.8%

女性 (H23) 21.8% → (H29) 22.8% → (R4) 12.6%

全体 (H23) 24.6% → (H29) 23.0% → (R4) 13.5%

○低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者⑩ (65歳以上): (H24) 17.2% → (R4) 男性13.2%/女性26.7% (全体20.9%)

○バランスよく食事を摂っている●⑫ (65歳以上): (H23) 全体83.4% → (R3) 45.6%

○毎食、漬け物以外の野菜料理を食べる① (60～74歳): (H23) 89.2% → (R4) 72.5%

○食生活改善推進員を知っている① (60～74歳): (H23) 51.6% → (R4) 29.5%

○食品を購入するときに栄養成分表示や賞味期限・消費期限を参考にする① (60～74歳)

(H23) 74.1% → (R4) 28.0%

○自分の食生活に問題があると思う (ある→食生活の改善に意欲がある) ① (60～74歳)

(H23) 64.8% → (R4) 20.0% ※参考 41.8%(20～59歳)

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- 高齢期における「肥満」や「やせ」の経年変化はやや改善方向(減少)にはあるものの減少率は小さい
- 適正体重者($18.5 \leq \text{BMI} \leq 25.0$)の割合は横ばい傾向
- アルブミン値(4.0 g/dl 以下)の割合は男女ともに減少 貧血者(11 g/dl 以下)は女性で増加傾向
- 食生活の改善に意欲のある方は20.0%(60～74歳)で青壮年期に比べ減少する
- 感染症予防の観点から調理や共食の場が減っている

【目標と計画】

めざすべき目標

- 1日3食、バランスの良い食事を心がける
- 簡単な料理を自分で作る
- 低栄養傾向(BMI20以下)の人の割合●⑩ (R4)男性13.2% →減少 女性26.7% →減少
- バランスよく食べられる人の割合●⑫ (R3)男性38.8% →増加 女性50.9% →増加

町の保健事業計画

- 地域包括支援センターと連携した栄養事業の構築(介護予防事業)
- 食事が楽しいと感じられるよう支援する
- 他課と連携した健診業務の実施
- 老人クラブ栄養教室
- メンズクッキングクラブ(自主グループ支援)：月1回(継続)
- 食生活改善推進員による高齢者食事支援(区民館等)
- 介護予防事業との連携
- 健康相談：月1回(継続)
- 広報いでゆを活用し、簡単なメニューの紹介等を行う：月1回(継続)
- 訪問栄養指導：随時

- ①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票
- ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート
- ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書
- ⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

㊦ ◆ライフステージ：高齢期 ◆領域：運動

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○運動をよくする（1日30分位の運動を週2回以上実施する）⑫（65歳以上）

	H23	R3	
		男	女
75歳未満	45.6%	66.5%	68.0%
75歳以上	41.3%	65.3%	58.9%

○外出頻度⑫（65歳以上）

毎日1回以上

	H23	R3	
		男	女
75歳未満	83.4%	70.8%	65.2%
75歳以上	66.3%	65.5%	70.8%

ほとんど外出しない⑫

	H23	R3	
		男	女
75歳未満	5.6%	2.5%	1.4%
75歳以上	18.9%	5.9%	8.2%

○要介護認定者⑬（H23）14.2% →（R3）17.4%

○1日30分週2回以上①（R4）41.2%（60～74歳）

○運動を心がけている①（R4）57.6%（60～74歳）／男性54.4%/女性60.5%（60～74歳）

○ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度①（R4）16.9%（60～74歳）

○日常生活における歩数（R4）①

問 日常生活で1日に何歩（何km）歩いていますか。（1つに○）

項目		3,000歩未満 (0～1.8km 未満)	3,000～4,999 歩(1.8～3.0km 未満)	5,000～6,999 歩(3.0～4.2km 未満)	7,000～8,999 歩(4.2～5.4km 未満)	9,000歩以上 (5.4km以上)	無回答	合計
		件数	187	145	60	39	44	739
60歳～74歳	%	264	25.3	19.6	8.1	5.3	6.0	100.0

○運動をよくする（1日30分位の運動を週2回以上実施する）●①⑫

60～74歳（H23）45.6% →（R4）41.2%①／75歳以上（H23）41.3% →（R3）49.9%⑫

○日常生活における歩数【7,000歩以上】●①（R4）男性15.7%/女性11.5%（60～74歳）

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

○各事業参加者が定着傾向にある

○感染症予防の観点から集まれる機会が減っている

○積雪寒冷地（3級地）であるため、冬期間の屋外での活動領域が狭められてしまう

○運動を主体とした高齢者が活動できる施設が限られている

【目標と計画】

めざすべき目標	
○ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度●①：（R4）16.9%（60～74歳） →増加	
○運動習慣のある者の割合（1日30分週2回以上）●①②：（R4）41.2%（60～74歳）→増加 （R3）49.9%（75歳以上）→増加	
○日常生活における歩数●① 7,000歩以上（60～74歳）：（R4）男性15.7% →増加、 女性11.5% →増加	
○介護保険利用者（要介護認定者の割合）●：（R3）17.4% →増加の抑制	
町の保健事業計画	
○健診事後指導における運動教室を定期的に開催する（介護予防教室、高齢者サロン、自主グループ活動、頭と体の体操教室等）	
○ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の予防に関する普及啓発を強化する	
○老人クラブ等の各種団体との連携、各地区における健康教育を実施する （老人クラブと共催の健康体操の実施、高齢者招待食事会における健康教育等）	
○健康教育を目的とした活動の他に、自由に利用できる室内スペース（総合体育館など）の開放を行う	
○身近で、安心・安全に運動ができる場所の確保や運動の機会について情報提供を行う	
○介護予防サポーターの養成と組織的な活動の促進により、地域全体で運動する習慣を身に付けられるよう環境を整備する	
①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書 ⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報	

㊦ ◆ライフステージ：高齢期 ◆領域：休養・こころの健康

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- 独り暮らし高齢者（H23）347人 →（R3）459人 ※70歳以上
- 閉じこもり傾向ある人（1回/週以下）⑫：（H23）47人（7.6%）→（R3）男性15.3% / 女性18.1% ※65歳以上
- 何かあった時、家族・友人・知人に相談する⑫
（H23）男性88.8%、女性94.3% →（R3）男性93.6% / 女性97.8% ※65歳以上
- 家族や友人の相談にのる⑫（H23）530人（86.0%）→（R3）男性90.9% / 女性93.8% ※65歳以上
- 主観的健康感⑫
「非常に健康」、「まあ健康」の割合
（H23）男性74.1% / 女性71.5% →（R3）男性78.3% / 女性77.9% ※65歳以上
- GDS（5/15点以下）抑うつ傾向あり⑫
（H23）男性25.2% / 女性22.9% →（R3）男性31.4% / 女性31.2% ※65歳以上
- 最近1ヶ月間にストレスを感じた人①：（R4）52.1%（60～74歳）
- 睡眠による休養が十分に取れていない人①：（R4）20.0%（60～74歳）
- 就業又は何らかの地域活動をしている高齢者●⑫ ※「収入を伴う仕事をしている人」
（H23）75.7% →（R3）35.2%（男性40.1%/女性31.3%） ※65歳以上
- 睡眠のために睡眠補助剤としてアルコールを使うことのある人①：（R4）12.4%（60～74歳）
- 健康や医療サービスに関係したボランティア活動に関わっている人●①：（R4）7.4%（60歳～74歳）
- 親しく行き来する友達等がいる⑫
（H23）男性86.3%/女性90.0% →（R3）男性45.0% / 女性63.6% ※65歳以上
※「対面接触＋非対面接触が週1回以上ある」
- 認知症サポーター養成回数・参加数③：（H23）全2回 98人
- 相談できる仲間がいる人①：（R4）78.6%（60～74歳）
- 自分と地域のつながりが強いほうだと思う人●①：（R4）36.4%（60～74歳）

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業

- こころの健康相談の周知は行っているが、利用について躊躇する傾向があり、利用者が少ない
- 15の行政区の共通課題として、人口減を含め地域コミュニティが希薄な傾向にある
- 高齢者が社会参加し地域づくりに貢献できるシルバー人材センターなどの活動拠点の仕組みがない
- 民生児童委員会等の関係団体と連携が図れていない
- 既存組織（老人クラブ等）や関係機関（社協等）との連携が図れず、同様の事業が展開されがちである
- 地域づくりを推進させる必要がある

【目標と計画】

めざすべき目標

- 最近1ヶ月間にストレスを感じた人の割合●①：（R4）52.1%（60～74歳） →減少
- 睡眠による休養が十分に取れていない人の割合●①：（R4）20.0%（60～74歳） →減少
- 相談できる仲間がいる人の割合●①：（R4）78.6%（60～74歳） →増加
- 自分と地域のつながりが強いほうだと思う人●①：（R4）36.4%（60～74歳） →増加

町の保健事業計画

- 高い専門性を有する専門家相談員による「認知症相談会」や「こころの健康相談」等の実施の継続
- 介護予防サポーター養成を行い、サポーター活動を広げる
- 気軽に集まれる場所、交流できる場所の提供（高齢者サロンや各種講座の開催）
- 一人暮らし高齢者配食事業（令和2年開始）の継続による一人暮らし高齢者の見守り支援
- 国の施策に歩調を合わせた民生委員の確保対策の推進
- 草津町地域福祉計画（令和3年度～令和8年度）に基づく福祉サービスの充実

- ①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票
- ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート
- ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書
- ⑬KDB(国保データベース) ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

㊸ ◆ライフステージ：高齢期 ◆領域：事故（転倒予防含む）

【現状】

※各項目の後ろの数字や記号は、出典先及び参照先を示す

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業	
○15分続けて歩ける⑫：（H23）90.7%（559人） → （R3）男性79.3%／女性77.1%（全体78.1%） ※65歳以上	
○バスや電車やバスで一人で外出している⑫ （H23）539人（87.5%） → （R3）男性44.1%／女性63.2%（全体54.9%） ※65歳以上	
○階段を何もつかまらずに昇る⑫：（H23）469人（76.1%） → （R3）男性72.4%／女性61.5%（全体66.2%） ※65歳以上	
○椅子から何もつかまらずに立つ⑫ （H23）538人（87.3%） → （R3）男性78.3%／女性73.0%（全体75.3%） ※65歳以上	
○足腰に痛みのある高齢者⑫ （H23）男性20.5%／女性24.6% → （R3）腰痛 男性24.4%／女性27.4%（全体26.1%） ※65歳以上 （R3）膝痛 男性16.4%／女性29.0%（全体23.5%） ※65歳以上	
○高齢者の疾病状況⑫⑬ 筋骨格の病気割合 （H23）9.5% → （R3）33.1% ※治療中か病院や健診で指摘あり ※65歳以上 （R3）KDB後期高齢者：要介護者の有病状況 53.3%	
○一年間に転んだ割合⑫ （H23）男性23.8%／女性25.1% → （R3）男性24.4%／女性29.4%（全体27.3%） ※65歳以上	

【課題点】

町民の健康状態や生活習慣など／町の保健事業
○自由に運動できる場所や機会が減っている
○介護予防事業対象者に対するのアプローチ方法
○積雪寒冷地（3級地）であるため、冬期間の凍結や積雪による転倒課題を抱えている

【目標と計画】

めざすべき目標
○厚生労働省が作成している啓発資料・リーフレットや動画等の活用により、転倒予防に関する普及啓発を行う
○筋力の低下によって転倒しやすくなるため、介護予防教室の周知を図り、参加を促す
○町有施設（観光施設含む）のバリアフリー化の推進を図り、転倒を予防する環境を整備する
町の保健事業計画
○介護予防健診及び介護予防教室の実施
○定期的な運動等の教室の実施
○高齢者が安全に運動や活動ができる場所の環境整備（地域との協力）
①健康生活アンケート ②子育てアンケート ③事業実績 ④栄養相談票 ⑤健診問診票 ⑥母子保健事業報告歯科保健統計 ⑦小児生活習慣病予防健診生活状況調査票 ⑧中学生アンケート ⑨健康のあゆみ ⑩健診結果 ⑪妊娠届時アンケート ⑫草津町介護予防事業対象者把握・普及啓発事業業務報告書 ⑬KDB（国保データベース） ●健康日本21 ■健やか親子21 △保健福祉統計年報

第5章 計画の推進・評価

1 計画の推進体制

本計画の推進には、町民をはじめ地域・行政・関係機関等が連携し、一体となって取り組むことが重要です。

町民においては、一人ひとりが本計画の趣旨を理解し、「自分の健康は自分でつくる」という意識を持って日頃の生活習慣等の見直しを心がけるとともに、家庭や地域で楽しく健康づくりに取り組むことが重要です。

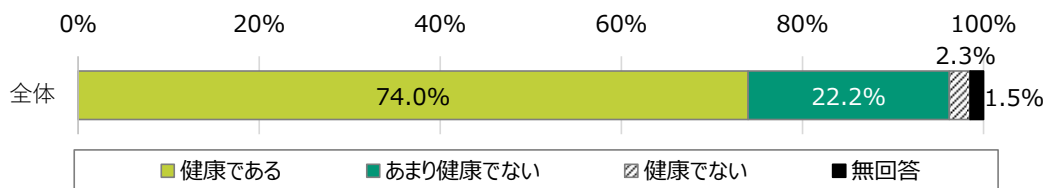
地域には、自治会や老人会のほか、食生活改善推進員等、地域に根付いた地区組織があります。これらが各地域の特性をいかした健康づくりを推進するとともに、住民同士のふれあいの場をつくることで、人づくりや地域づくりの推進にもつながることが期待されます。

行政には、様々な健康づくりサービスを提供する担い手として、積極的に健康づくり活動を展開する役割があります。地域や各関係団体、関係機関と連携・協力しながら、総合的に健康づくり施策を推進していくことが重要です。

2 計画の評価

(1) 計画全体の評価指標

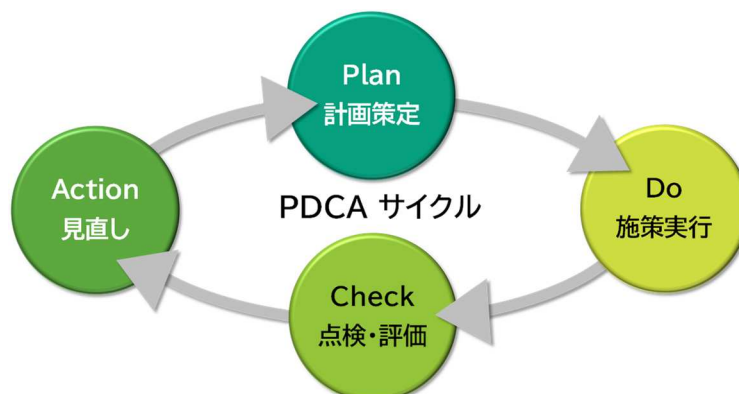
自分は、「健康である」と思っている人の割合を増やす（R4 年度：74.0%）



(2) 計画の評価と進行管理

本計画は、年度ごとにPDCAサイクルによる進行管理を行い、効果的な施策実施と課題解決を図ります。

本計画の評価と進行管理については、年度ごとに各分野の目標事項や目標値評価のための調査と事業実績の評価を行うとともに、中間評価及び次期計画策定時には町民アンケートを行います。また、国保データベースシステムを活用し、分析・評価します。



資料編

1 草津町健康増進計画策定委員会設置要綱

令和四年八月一日
要綱第五十二号

(設置)

第1条 健康増進法（平成14年法律第103号）第8条第2項に基づく草津町健康増進計画（以下「計画」という。）を推進するため、草津町健康増進計画推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 計画の評価、見直し及び策定に関すること。
- (2) その他計画の推進に関し必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員10名以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- (1) 町内医療機関の代表者
- (2) 関係行政機関の職員
- (3) 関係団体の代表
- (4) その他町長が認めた者

3 委員の任期は、委嘱の日から健康増進計画の策定を終える日までとする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことはできない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときには、委員長の決するところによる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、健康推進課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

2 草津町健康増進計画策定委員会名簿

草津町健康増進計画策定委員会名簿

職名	役職及び団体名等	氏名
委 員	布施医院長	布 施 正 博
委 員	草津歯科医院長	島 村 修
委 員	母子保健推進員会委員長	大 嶋 知 美
委 員	食生活改善推進協議会長	大 谷 和 子
委 員	総務課長	石 坂 恒 久
委 員	福祉課長	中 澤 一 夫
委 員	住民課長	堀 田 高 史
委 員	教育委員会事務局長	白 鳥 正 和
委 員	こどもみらい課長	高 井 洋 一
事務局長	健康推進課長	和 田 修
事 務 局	健康推進課管理栄養士	岡 部 たづる
事 務 局	健康推進課保健師	白 鳥 千 春
事 務 局	健康推進課保健師	一 場 千 慧
事 務 局	健康推進課保健師	萩 原 里 美
事 務 局	健康推進課主任	長 井 菜 穂

草津町 健康くさつ21(第3次)計画

「草津町食育推進計画(第2次)」

「くさつ健やか親子21(第3次)」

令和5年(2023年)3月発行

草津町 愛町部 健康推進課(保健センター)

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町大字草津464番地28

Tel 0279-88-5797 ・ Fax:0279-88-1055

